

特208

263

我が校芸能科教育の實踐

志太郡島田町第三國民學校



\*0048803000\*

0048803-000

特208-263

我が校芸能科教育の實踐

静岡県志太郡島田町第三国民学校

昭和18

AHI



## 目次

一、はし	一
二、我が校教育の方針	二
三、藝能科教育の方針	三
四、藝能科音楽に於ける和音訓練	三
五、習字教育に於ける躰について	四
六、藝能科圖書に於ける着眼	五
七、藝能科工作教科書の取扱と機械教材の指導	六〇
八、藝能科裁縫に於ける衣類生活指導	七三

特208  
263

## はしがき

このさゝやかな、そして淺薄な研究物を、大方諸賢の前に公開いたしました。御批判を仰ぐことは心中ひそかに忸怩たるものがあります。併し私の學校としては、微力ながらも驚馬に鞭ち、讀み且つ思索し諸先生、先輩各位の御指導を仰ぎつゝ、工夫研究させて戴く機会を與へられました事を衷心感謝してをります。

願れば去る十五年皇民鍊成の重大使命を帯びて、國民學校案なるものが生れて茲に二ケ年、此れが何物であるかその實體を捉へるべく、その探究にこれ努めてまゐりました。その後本年八月末、本縣から教科研究の命を受けて以來主として藝能科に就て研究をしてまゐりました。教師用書の逐條研究から始めて、研究座談會を開いたり、静岡、濱松兩師範學校の該科研究部の先生方を煩はし、數回に亙り實地指導を願つたり、更に東京高師並に女高師の先生方をお尋ねして、御意見を伺ふ等あらゆる角度から、これが究明につとめてまゐりました。意氣と努力とを以て御期待に添ふやうにと心のみはやたけに、はやつても何分力が乏しく、まだ〳〵疑問ばかりで、何かしら、霞を隔て、山を望むやうな感じがしてをります。

然し乍ら國民學校の教育は從來の教育の一大改革であり、新しい教育體系ができたとは云へ、根本に於ては教育勅語を根柢として行はれてきた小學校教育の發展伸張の教育であつて、決して行過ぎや、偏した教育であつてはならない事に間違はなからうと思ひます。

全體觀と云ふ言葉に眩惑されて個別指導を怠つたり、實踐の教育なる名に把はれて知識技能の陶冶を輕視するが如き、或は教科外の鍊成に偏つて教科に於ける修練を忽にするやうな結果になつては却て、國家の要請に隔たること遠きものがあると思ひます。同様に藝能科に於ても、實用的の使命が強調されると云つてもこれを偏重して、國民的情操の醇化とい



よ点を輕視するならば、藝能科本然の姿を没却してしまふことになると思はれます。

要するに、今日直面してゐる事實、勝たねばならぬための鍊成、所謂高度國防教育でなければならぬと同時に、大東亞共榮圈の指導者たる人材を養成するため、將來をも十分考慮した教育でなければならぬと思ひます。

随分社撰であり、獨斷が多いことと思ひますが、幸に諸賢の御叱正を戴き一日も速に、正しい道に就きたいと存じます。

終りにこの研究に當り東京高師の田原、三苦兩教授初め藝能科研究部の教官各位並に静岡、濱松兩師範學校の高木、能勢、三井各先生方の御懇切なる御指導を賜りましたことを謹んで御禮申上げます。



## 我が校教育の方針

### 一、教育の方針

國民學校令第一條に則り教育全般を皇國の道の修練に歸一せしめ、心身を一體として教育し、生活に必須なる知識技能を鍊磨し、情操を醇化し健全なる精神と身體とを育成し、皇運扶翼の純情と強き實踐力を有する皇國民の鍊成を期す。

特に現下の時局に鑑み、皇國の使命の重大なる所以を自覺せしめ、興亞の聖業を貫徹せんとする氣魄を養ひ、戦時下國民生活の實踐を指導し、大東亞戦争完遂の大業を翼賛せしむ。

### 二、特に留意しつゝある点

#### (一) 國體に対する信念を養ひ、敬神崇祖の念を啓蒙す

我が國聲國の精神に徹せしめ、皇室と臣民と國土が相即不離、極めて自然的であることを理解せしめ、天孫の降臨し給へる當時、多くの神々が奉仕せられた精神をそのまゝ、億兆一心、皇室を中心に、天皇に絶對に隨順し奉らしめねばならぬ。皇室に對し奉る情は義務心からではなく、權力に服する事でもなく只管、至尊に對し奉る渴仰隨順で聲國の精神に淵源せる自然の情の發露であつて、その故に皇統は無窮に隆昌し、國體は他國に類例のない尊嚴なる所以に感銘せしめ皇國に生を享けたる歡びと誇とを感ぜしめなければならぬ。

#### 施設概要

#### 1、國體觀念の明徴

イ、勅語奉讀、神勅、教育に関する勅語、青少年學徒ニ賜ハリタル勅語、宣戰ノ大詔を學年に應じて謹解し時々奉讀謹



寫せしめて聖旨の徹底を圖り、日夕服膺せしめ之が實踐を期す。

ロ、御影奉拜、御影を崇敬の中心として最も尊崇し、會禮時登校下校時には必ず奉拜することとす。

ハ、御製奉誦、教科の授業時間、或は團體訓練時に於て奉誦せしめ、聖徳を偲び奉り、大御心を奉体せしむ。

ニ、國旗掲揚、祝祭日、記念日、毎月一日十五日に掲揚し、國旗に對する觀念を養ふため、教科の錬成と關聯して訓話し、これを尊重せしむることとす。

ホ、儀式、儀式は國民的情操を陶冶するに最もよき機會なれば、四大節を初め各儀式は最も嚴肅に且つ莊重に行ひ、其の感銘を深からしむることに努む。

ヘ、記念日、國家的記念日には其の意義を明にし、これに因める行事をなし、愛國心を涵養す。

2、敬神崇祖の念を養ふ。

イ、皇大神宮、校長室に奉祀し、職員兒童尊崇の中心として毎朝夕禮拜し六月十七日、十二月十七日には小祭を、二月十一日例祭を行ふ。

ロ、氏神參拜、毎月八日、大詔奉戴日大井神社に參拜し、又入學、修了の際、記念日其他隨時參拜す。

ハ、神佛の禮拜、家庭と聯絡し各自家庭に於て祭祀せる神佛に禮拜せしめ、之が清掃、香華を手向くことを勵行せしむ。

## (二) 減私奉公の精神を養ふ

明治初年以來澎湃として流込んだ歐米思想のため、唯物的思索による個人主義、自由主義的思想は國民の腦裡に深く浸潤し、皇國が興亡を賭して戦ひつゝあるこの非常時局に際會してすら尙完全に除くことの困難な状態にして、教育の目的を個人の立身出世、富貴榮達の方便と思惟する如き弊今猶決して少くない。

かゝる功利的、打算的な思想傾向を根本から一掃し、汝我只管大君にまつらう正しき日本人を造らなければならぬ。而して現下の時局はこの主義、思想を矯め、この認識を是正するに最もよき機會にして又これを貫徹するにあらざれば、今次大戦の完勝は不可能である。

實踐上の留意点

1、國家の興亡を外にして個人の盛衰浮沈のあり得べからざることを體得せしめる——我が肇國以來生成發展して來た國運隆昌の跡を内省せしめる。

2、犠牲奉仕の念を養ふ。  
醜の御楯となつて笑つて死地につく事が我國古來の傳統であり、かゝる行動こそ永遠に生きる道であることを信念として植付けたい。

これに關する資料の蒐集——古來の史實、最近の戦争美談、銃後美談——これ等の説話により感激體得せしめる。

3、大和の精神訓練

民族の傳統である大和結合の精神を錬成する。これが爲には隨順、協同、規律の精神が必然的に要求せられるが故に團體訓練を重視しなければならない。而して團體精神の根本は外面的には力の協同であり、内面的には精神的の結合であつて、これは教室に於ける學習時中にも、清掃作業の中にも、合同體操にも、行軍にも凡そ團體生活のある所に團體訓練の要請されないことはないと言ふ事を教師は強く意識してゐなければならぬ。これが實踐にあつて特に注意すべき点は、形式に流れ機械的に墮することなく、その目的を明確に意識せしめ、周到なる計畫を樹て、眞劍に實行せしめなければならぬ。

## (三) 鞏固なる意志と強き實踐力を養ふ



過去の教育は觀念の陶冶に力が注がれてゐた儘があつたとすれば、國民學校に於ける教育は意志を鍛練し實踐力の養成に、より一層の努力が拂はれなければならぬ。

實踐的教育は事上錬磨であり、實踐を通して知徳を啓発することであると思ふ。學習は「行」であり又「行」としての學習でなければならぬ。身を以て行し、そして身についた知徳でなければ修練の意味をなさない。墨の上の水練であつてはならない。先づ溺れて然る後に、自ら泳ぐことを體得する行き方であり、空想空論に終始する半可通の人間でなく黙々として自己の天職に魂を打込んで活動し得る、士氣旺盛にして精神力強き人物こそ與亞の盟主日本を背負ひ得るものである。

#### 實踐上の注意点

- 1、理解と實行とを切離して別個に考へてはならない。兒童の生活體驗を基礎として、其れから出發し、生活せしめつゝ、理解せしめ、學ばしめつゝ、行ぜしめなければならぬ。
- 2、作業の訓練に力を注ぐ、努めて身體を働かせ、働くことを厭はない子供、所謂骨折惜しみをしない子供にしたい。手足を働かせることを好み、楽しみつゝ、働く子供にする。それがためには、教兒一體、師弟同行でなければならぬ。又結果に拘泥せず、過程を重んじ、規律、協同の精神を陶冶し、物に感謝し、物を尊重する習慣を養ふ。
- 3、現地訓練、臨地指導を重んじ、實事、實物、自然物を活用し、行ぜしめることによつて知らしめる。
- 4、國家的行事其他社會的、特に郷土的の行事には進んで参加せしめ、其の一員として行事に参画してゐる間に其の意義を體得せしめる。
- 5、學童の葉の利用、兒童の全生活を通じ、糞を重んじ、家庭と聯絡し自覺的に善良なる習慣を養ふため、學童の葉を平素携帯せしめ日々誦讀服膺し、且つ反省の資料となす。
- 6、週訓其他學校諸規程は、兒童が必ず實踐し得るや否やを綿密に検討して定め、其の徹底の程度につきましては、仔細に研究する。

究査察し、不徹底の事項につきましては其の原因を究止め是正につとむ。

- 7、實踐の不徹底は教師の根氣の足らざるによる、又些事を忽にし、見逃すことより起る。この二点特に誠むべきである。

#### (四) 健全なる身體を練成す

身體を睡れて精神なく、如何に優れたる知識技能も、又如何に深き國體に關する信念も強健なる身體、逞しき體力がなければこれを活用し實踐して行くことは不可能であつて、國民練成の基礎は、強靱なる身體の育成であることを信ずるのである。

然るに翻つて當校兒童の現状を觀察するに、其の體重に於て胸圍に於て著しく發育劣り、又疾病異狀兒童尠からず、これを救済し向上せしめるには、養護と鍛練、即ち衛生と運動との一體的指導を期し特に次の諸点に注意す。

- 1、衛生訓練の徹底を圖り、兒童生活の内に習慣として具現せらるゝ様努むること。
- 2、鍛練的教材の指導に當つては、これのみに把はれることなく、常に衛生養護に留意し、兒童の健康状態を仔細に調査し、これが適正を期すること。
- 3、身體検査を毎學期行ひ、其の結果を活用すると共に、校醫との聯絡を密にし、健康相談を効果的ならしめ、兒童健康の増進につとむ。
- 4、家庭との聯絡を緊密にし、其の生活状態を詳細に調査し、保護者と協力してこれに對する指導に遺憾なきを期す。
- 5、雨天時、嚴寒季、夏季等に於ける體練養護に關する周到なる計畫をなし、これが施設の充實をはかる。
- 6、姿勢の矯正、歩行の姿勢、學習中に於ける態度、特に筆寫の姿勢等につき、間斷なき注意を與へ、身體検査の結果を参考にし、禮法の指導と聯絡して、常住これが矯正につとめ習慣化すること。



- 7、歩行の訓練、全校訓練、體鍊時、登校下校時等を利用し、歩行の矯正をなし、正常歩が、常時行はれ生活化する迄訓練すると共に乗物を禁じ成るべく徒歩する習慣を養ふ。
- 8、駢歩強歩の奨励、體鍊時又は特定の時間を設けてこれが鍊成に努めなるべく多くの機会を與へて鍛鍊をなす。特に強歩は、一定の距離を速く歩くこと、一定時間内に歩く距離の比較等行ひて奨励す。
- 9、薄着の勵行、夏季は勿論春秋等裸體々操、跣足の體操等を奨励し、外套、襟卷、手袋の使用を禁じ、足袋靴下の使用をなるべく抑制す。
- 10、衛生檢閲、毎週火曜日、頭髮、爪、耳、齒、手拭、鼻紙等につき調査し、清潔の必要なる所以其他衛生に關する注意をなす。
- 11、耐熱耐寒訓練、耐熱及耐寒行軍を行ひ武道、駢歩等の土用、寒稽古を行ふ。
- 12、食事訓練、咀嚼、食事の姿勢、食前手洗の勵行、食後の休養、偏食の矯正、食事に對する感謝の訓練をなす。
- 13、採光と換氣、直射光線を避けるためカーテンの開閉に注意し、窓、高窓の開閉に留意し、最寒季と雖も高窓は開き、休憩時は教室の戸を開放して換氣につとむ。

(五) 教科外の特別鍊成並に諸行事實踐上の留意点

國民學校に於ては、各教科及科目以外に行事、團體訓練等の特別鍊成の機会を設けられたのであるが、これは新しい規程なるため教育實際家の視聽を聚め一大關心事として研究の中心となり、自然これに力が傾注せられつゝある現状である。

思ふにこれ等の諸行事は、(イ)國民的情操を陶冶するに最もよき機會であり、(ロ)更に身心一體の教育、所謂身についた知徳を鍊成するために、(ハ)犧牲奉仕協同等の實踐力と闊達剛健なる心身を鍊成するに、最も効果的なる施設であつて

皇民鍊成上必要缺くべからざる教育作用である。而してこれ等の諸行事は、教科による鍊成と離るべからざる表裏一體の關係を有し、教科と合せ一體として取扱ふことによつて、始めて其の効果を發揮することを得るのである。

然るに動もすればこれ等の施設が断片的となり、偶發的なるに傾き、又教科に何等の關聯もない事項を形式的に強制する傾向に陥り勝ちで、結局行事倒れとなり徒に時間を空費するのみとなり、何れにも其の成果を期し得ない結果に陥る弊が少くなかつた。

實踐上の留意点

- 1、鍊成の目的を明瞭にし、これを自覺せしめ、周到なる計畫をたて、合理的なる方法によつて實施する。
- 2、教科によつて教授せる事項と緊密に關聯せしめ併せ一體として鍊成の實を擧ぐるやうにつとむること。
- 3、團體訓練其他諸種の行事は、出來得る限り之を教育的に整理し、組織化し一時の思ひつきによる施設や断片的なるものは避けなければならぬ。
- 4、形式に把はれて實質の伴はない行事は兒童の身につかない許りでなく、却て訓練を破壊する結果となる、誠めなければならぬ。
- 5、教科外の行事を重んずるの餘り教科による知識技能の徹底を缺き、或は兒童に過重の負擔をかけて過勞に陥らしめないうやう注意する。

(六) 教科の分離を避けこれを統合して教育の徹底を期す

各教科並に科目には皇國民を鍊成すべき各種の要素を含み、これを獲得せしむべき夫々の目的をもつてゐる。而も各教科及科目は各其の内在于る價值と形態とによつて、便宜分離した形に於て取扱はれ、各其の位置によつて陶冶價值を發揮しなければならぬ。



けれ共元來兒童の生活は科學的に分類されてゐるものではなく、凡てのものが混然融合してゐる有機的なものであるに各教科、科目が分離して統合を缺くに至つては、教育の徹底を缺き、國民的人格の統一的發展を期待することは出来ない。故に各教科、科目は夫々その主たる使命があることを忘れぬと同時に夫等の間の密接な關係を保つことが指導上極めて重要なことである。藝能科工作指導に於て、理數科理科に基礎を置き、圖書科及算數の内容を取入れ或は裁縫科と聯關して始めてその目的を達し得るが如き場合決して少くない。要するに夫々の特質に應じて教科が分析せられ、又其の教科より各中心観点によつて科目が分たれたのであつて、従つて各科目の教授はその屬する教科の教育目標に統合せられ、更に教科の五者は相互に聯關しつゝ有機的に統一を保ち、而して其の一切は皇國の道の修練に歸一する所に始めて全一的なる皇國民としての人格は鍊成せられ又發展するのである。

#### 注意事項

- 1、各教科、科目の關聯統合に關しては自然的でなければならぬ。作爲的な技巧や強制に陥つて、爲に其の教科の本質を喪ひ、學習能率を減殺し、修練の徹底を缺くが如き弊に陥らざること。
- 2、教材を精査し各教科及科目間の脈絡につき調査を遂げ、取つて以てその理解を扶けその徹底を期するに要するものは何れの教科、科目に拘らず導入し得る用意をなし置くこと。
- 3、教師自ら全教科々目につき、不斷の研究を遂げ、全教科々目に通曉し、何れの科目にも聯絡し得る用意を有すること。

#### (七) 時局に對する留意点

我が國が現在直面してゐる東亞及世界の現状を明にし、這般の大戦と聲國精神との關係、更に我が國の使命の重大なることを自覺せしめて、興亞の大業を貫徹せしめんことを期し、之を實現せしめ得るやうな創造的、發展的精神を陶冶し大國民としての資質を涵養すると共に、戦捷に眩惑され或は、戦は勝つものなりと考へ、心に弛緩を來すやうな事があつ

てはならぬ。

兒童をして歐米の現状を正しく認識せしめ、特に米英の力の決して侮るべからざる事を知らしめ、戦は精戦にあらずして、寧ろ今後にあるべきことを意識せしめ、力めて心身を鍛練すると共に、戦時國策の眞義に徹せしめ、進んでこれに協力せんとする氣魄を養ふ。

#### 施設事項

##### 1、戰場精神の昂揚

- イ、大詔を奉讀し學年に應じて謹解し、聖旨を奉体せしめ、盡忠報國の精神を徹底的に昂揚し、獻身奉公の誠を致すべく志操を堅固にする。
- ロ、時事揭示、訓話、諸外國に關する資料の展示等により時局の眞相を正しく把握せしむ。
- ハ、國內是戰場たるの意識を強め、總力戦に於ける戦闘員たるの熾烈なる敢闘精神を養ふ。
- ニ、皇軍將兵の忠勇美談、銃後々援の美談等を蒐め、これを學年に即應じて説話し、感銘を深からしめ、滅私奉公の精神を旺盛にする。

##### 2、資源愛護、消費節約

- イ、總力戦に於ける物資の尊重すべき所以を知らしめ、消費の節約につきて周到なる指導をなす。
- ロ、生活の簡素、特に衣服其他身の廻り品の質素簡易を奨励し、學用品の取扱、物品の厚生利用に關する指導を行ふ。
- ハ、釘針、蓄音器の針、空邊等廢品の回收に協力せしむ。
- ニ、戦時増産計畫に協力せしむ——食糧農産物の増産、野生苧麻の採集、フングリ、茶の實の蒐集等。

##### 3、貯蓄奨励

- イ、貯蓄組合を結成し、全校兒童職員これに加入せしめ、規約により貯蓄を勵行せしむ。



ロ、現時局に於ける貯蓄並に、公債消化の意義を正しく認識せしめ、進んでこれに協力せんとする精神を養ふ。  
ハ、公債債の消化に協力せしむ——修了期其他隨時、學校にて斡旋し奨勵す。

#### 4、軍人 援護

イ、皇軍將兵の慰問、兒童慰問作品、及び職員の郷土便りを毎月、郷土出身の將兵に發送す。

ロ、勞力奉仕及慰問、戦歿者、出征者の遺家族を慰問し、高學年兒童は勞力奉仕をなす。

ハ、戦歿勇士の墓參、殉國勇士の命日及記念日には墓參をなし、香華を捧げその忠烈を偲び、感謝の誠を捧ぐ。

#### 5、防空、防諜思想の涵養

イ、防空並に防諜の眞意を知らしめ、現下の時局に於て其の一日も忽にすべからざることを感得せしめる。

ロ、學校防空、避難訓練は毎月一回以上行ひその徹底を期す。

ハ、防諜に關しては特に訓話し又は標語、ポスター等を作製せしめる等の方法によりこの思想の涵養につとむ。

#### 6、海外發展の意氣の昂揚

古來の史實に鑑み、我が民族の海外發展の意氣に感ぜしめ、氣候、風土、文化、産業等につき海外の事情を知らしむる様力めて施設し、特に滿蒙に對する理解と關心とを深め、青少年義勇軍、開拓移民の使命と現状とを認識せしめ、東亞共榮圈に於ける我が民族の責任と將來性につきて理解せしむ。

## 藝能科教育の方針

### 一、法 令

國民學校令第一條には、

國民學校ハ皇國ノ道ニ則リテ初等普通教育ヲ施シ國民ノ基礎的鍊成ヲ爲スヲ以テ目的トスとあり、又國民學校施行規則第十三條には、藝能科ハ國民ニ必須ナル藝術技能ヲ修練セシメ情操ヲ醇化シ國民生活ノ充實ニ資セシムルヲ以テ要旨トス

技巧ニ流レズ精神ヲ訓練スルコトヲ重ンジ眞摯ナル態度ヲ養フベシ

我が國藝術技能ノ特質ヲ知ラシメ工夫創造ノ力ヲ養フニカムベシ

教材ハ成ル可ク土地ノ狀況ニ應ジ生活ノ實際ニ即シ且國民的情操ノ陶冶ニ資スルモノタルベシ

日常生活ニ於ケル應用ヲ指導シ個性ノ伸長ニ留意スルト共ニ適宜共同作業ヲ課スベシ

體ヲ重ンジ姿勢ニ留意シ用具材料等ニツキテ適切ナル指導ヲナスベシ

と示されてある。今此の精神に基きて藝能科教育の方針を樹立するのであるが、これについては教師用書に幸ひ詳述されてゐるので、其の所説に基き本校の態度を述べることにする。

### 二、要 旨

#### (一) 皇國の道の修練

皇國の道の修練は國民學校教育の一般的原则であるが、藝能科教育に於いても亦之を銘記しなくてはならない。吾々は悠久の昔から吾々の祖先が修練し創造してきた歴史の國民的な藝能文化の中に養はれ育てられてゐる。そこには祖先が吾々に残した傳統的な物の見方、感じ方、考へ方があり、遺訓があり、遺風があり、道がある。それが皇國の道である。さうしてそれ等のものの歸結するところは、藝能文化の面を通しての皇運扶翼といふことにある。それが皇國の道であり、之が修練こそ藝能教育の目的である。即ち藝術技能を修練することを通してこの皇國の道に參じ、自分に於いて皇國の道



を自證し、皇國の道に於いて自分を自覺し、皇國の道の使徒として、これを詔述し、これを顯彰し以て國運の發展に貢獻して行かねばならないのである。

それには第一に修練が必要である。故に行と行得とを忘れた觀念や觀想のみであつてはならない。又それは道の修練である。故に單なる技能や知識の傳習のみに止らず、道を修め道を求める心がなくてはならないのである。又それは皇國の道の修練である。故に我が國の傳統を忘れた他國の藝能への心酔や、國家を超えた藝術至上主義とか、美のための美とかいふやうなものであつてはならないのである。飽くまでも我が國藝術技能の實修を通して皇國の道を體得せしめることであらねばならないのである。

次に藝能科は國民鍊成のための教科である。故に抽象的な個人の人格完成とか、自我實現のための教育ではなく、具體的に忠良な皇國臣民を鍊成するための藝能教育であり、又國境を超えた單なる人間性の教養ではなく、歴史的な日本國民性の鍊成のための藝能教育であらねばならないのである。

更にそれは基礎的鍊成のための教科である。故に兒童將來の多様な發展のよつて出る基礎に培へばよいのであつて、専門じみた純粹美術の教育とか、小藝術家を育てるやうな教育に流れてはならないのである。

## (二) 國民生活の充實

抽象的な個人といふやうなものは現實には存在しない。吾々は根本的に歴史的社會的存在である。さうして吾々は本來かゝる國民生活によつて形成せられ、また國民生活を形成して行くべき存在である。随つてかやうな生活を營む吾々には内にある國民的情操的なものを、具體的な客觀的なものにもまで表現し形成して行くことによつて、どこまでも自分を見て行き自覺してゆかうとする藝能的表現の要求がある。さうしてこれを果すことに於いて、満足と喜びがあり、またそれによつて吾々の國民生活は豊醇にされ、滑澤にされ、生き甲斐のある生活をなし得るのである。そこに國民生活の充實がある。

る。藝能科はかやうな意味に於いて國民生活の充實を目的とするのである。

## (三) 藝術技能の修練

國民學校教育の一分節として、藝能科の分擔する部面は、藝術と技能の修練であり、要するに情操の醇化といふことにある。藝術は主として美的な價値の表現活動であり、技能は廣い意味では藝術を含むが、どちらかといへば實用的實際的な價値の表現活動である。しかし藝能科の中に此の二つが二元的に併立するものでなく、また藝術と技能が別々にあつてこれを組合せて藝能科が出来たものでもなく、本來一體である藝能的活動の兩極をなすにすぎないのである。即ち藝術は技能を反極としてもち、技能は藝術を反極としてもち、共に情操を基調とした生活態度の現れであり、共に行動を通し、物を素材として、合理的に形成してゆく表現の活動を中心とするものである。

飽くまでも實際生活を離れず、實際生活に即してゆかうとする藝能科に於いては美と實用とを一如の姿で生活に具現してゆくことを理想とする。本來美と實用とは必ずしも矛盾するものではないのみならず、却つてこの兩者を巧みに相即融合せしめることこそ我が國藝術のすぐれた傳統の一つである。

藝能科の修練に於いては、どこまでも身を以て行じ、身に訴へて知り、身についたものとせねばならない。藝能科には各科とも表現、鑑賞、理會等の諸方面があるが、作ることに、見ることに、知ることは本來離るべからざるものであるから、これ等は相互に密接な關聯を保ちつゝ、すべて此の精神をもつて貫き、且つ、常に反覆練習と苦心推敲とのうちに百練自得せしめることが大切である。

## 三、藝能科指導の方針

### (一) 精神の訓練



藝能科の指導に於いては、技巧に流れず精神の訓練を重んぜねばならない。古來我が國民は技巧に於いて優れてゐるに拘らず、技巧の末梢にのみ偏することを深く戒め、術を超えて道を求め、技巧を通して精神をねり、心身一體、心技一致のところ、道を修めて人間をつくるといふことを重んじたものである。わが國藝道のかやうな傳統は藝能科に於いても益々維持發揚しなくてはならない。

しかし技巧に流れずとは、單に手先の器用さなどを追ふ流弊を戒めたものであつて、決して技巧を無視する意味ではない。本來技術の訓練を外にして精神の訓練なく、精神は技術を通してのみ磨かれ、技術は精神によつて輝くものであるといふまでもない。

精神の訓練は修練の過程に於いてこそ行はれる。故に藝能科に於いては製作實習の過程を重視して、單に結果や成績のみに偏重してはならない。又此の過程に於ける修練には興味や喜びがなくてはならぬと共に、刻苦して製作し、久しきに堪へて完成するといふ眞剣な心構へや、作品に於いて自らを省み、過程そのものに自ら楽しむといふやうな眞摯な態度を養ふことを忘れてはならない。藝能科をもつて單に興味中心の遊びごとと観するやうな考へ方は深く戒めねばならない。

## (二) 我が國藝能の特質

藝能科に於いては我が國藝能の特質を知らしめねばならない。祖先の遺産としての歴史的藝能作品は國民精神や國民的情操の最も具象的な現れであり、大きな陶冶力をもつものである。随つて兒童をこれにふれしむることによつて、最も有効に端的に國民的情操を陶冶することが出来るのである。この意味から各科とも鑑賞の教育に留意しなくてはならない。我が校に於いても鑑賞の施設と之が指導に意を拂ひつゝある次第である。

尙我が國藝能文化を尊重することが決して退學的な尙古主義や、外國文化の排斥を意味するものでないことは勿論である。

## (三) 工夫創造力の養成

藝能科に於いては工夫創造力の養成にとめねばならない。随つて自發と個性を重んじ表現意慾を鼓舞し、發明創案にとめしめねばならない。特に藝術的、技術的良心を養ひ小成に安んずることなく、推敲改良して己まない態度を養ふことが大切である。吾が國藝能の傳統を尊重することと、創造力の養成とは決して相反するものではない。偉大なる傳統こそ眞に創造するものである。それと共に今後の藝能科教育に於いては從來より一層科學的合理的なものの参加が必要である。

實際指導に當つては教材の研究に格段の留意を拂ひ、如何なる点を如何にして工夫創造させるかを把握して、かゝらねばならぬ。又結果にのみ着目し、兒童の尊い工夫考案の餘地を奪ふやうなことが、あつてはならない。又工夫創造能の陶冶價値を多分に持つた教材を選ぶとか、創作展覽會等の施設を通して之が啓培につとめることも意義あることである。

## 四、教材の選擇排列

教材は我が國藝能文化につき、藝能科の目的を達成するに必要なものを、國民生活及び學校行事の實際に即し又兒童の心身及技能の發達に留意して、精選すべきである。幸ひ文部省に於いて之等の点考慮のもとに教科書を編纂されてゐるか、之を更に具體化、實際化、郷土化するやう指導する考である。

尙地方的教材の問題であるが、施行規則中にも「教材ハナルベク土地ノ狀況ニ應ジ生活ノ實際ニ即シ且國民的ナルモノタルベシ」と示され、其の考慮の必要を述べてゐる。従つて教科書に於ける教材の選擇排列の精神を體し之を地方化すると共に代用教材補充教材にも意を用ひなくてはならない。然し地方教材の美名の下に陶冶價値の乏しい稀有特異の地方的資料に偏することは戒むべきである。本校としては教科書教材の地方化を圖るを本體とし地方教材は補充教材として取扱ふ方針である。



## 五、指導上の留意点と其の施設

### (一) 日常生活への應用

藝能科の教育が單に教室だけのものに終らず、こゝで修練した情操なり技能なり、知識なり感覺なりが兒童生活の全面に具現され應用され、生活そのものも生活の環境も、藝術的にたしなみ深く洗練されたものとなり、また、能率的合理的なものとなるやうに指導することが大切である。更に進んでは利用更生とか國防産業の方面に寄與貢獻する精神を養ふことが大切である。

次に本校として生活への應用の機會として指導してゐる点を述べる。

#### 1、校舍校具の修理

校舎、垣根、硝子窓棧、机、腰掛、窓幕等の小破を初等科六年兒童に修理させ、一つには技能の應用を圖ると共に奉仕の精神を涵養す。

#### 2、慰問作品の發送

前線將兵へ毎月發送する慰問作品(習字、圖書、工作)には兒童各自の全能力を以て表現させ、戦後國民の務を果せると共に藝能の應用修練を圖る。

#### 3、戰爭畫、ポスター等の作製

戰爭畫、或はポスター等を描かせ愛國心の高揚を圖ると共に表現能力の啓培を圖る。

#### 4、學用品、機械的玩具等の製作使用

兒童の生活に必要な學用品或は機械的玩具等を作製使用せしめ兒童の體得した藝術能を充分伸長させる。

### (二) 個性伸長と共同作業

藝能科に於いては教科の性質上特に個性の伸長に留意せねばならぬことはいふまでもない。ただ個性と癖とを混合したり、或は誤つた自由や放任に墮したり、個人主義的教育に終つたりすることは戒めねばならない。特に初等普通教育としての或る一定の要求を満すことを忘れてはならない。

個性伸長と共に、これを綜合することによる共同作業を適宜行はせ、個性を通して全體に奉仕し、相互に協力する精神を養ふことは極めて必要なことである。本校のこれ等に對する考慮を述べると、

#### 1、特 技 指 導

毎週土曜日放課後四年以上各學級より五、六名を選び藝能科各科の特技指導を各科研究部員がなす。三年以下に於いては放課後隨時各受持に於いて之が指導に當る。

#### 2、共同製作並作業

各學年共同製作教材の取扱に當つては其の計畫を綿密にし、各自の責任を十分果させるやう工夫し其の目的達成につとめる。

尙見箱の作製、觀察園建造等のコンクリート工事には兒童も協力させ共同奉仕の精神を涵養す。

#### 3、競技會、展覽會、音樂會

藝能科各科の修練と振興を圖る意味で、模型航空機競技會、展覽會並音樂會を學校行事として催す。此の間に於いても個性の伸長、或は共同作業の点をも充分に考慮し指導に當る。此の際注意すべきことは結果にのみ着目して重要な過程に於ける指導を忘れてはならない。

### (三) 羨、姿、勢

羨の教育は我が國教育に於けるゆかしい傳統である。特に藝能科は行動を主とするものであり、且つ用具材料を取扱ふ



ことも多いから、鏡の教育を行ふ必要も機会も格別多いものである。特に清潔整頓、仕事の後始末、材料の節約利用等の良習慣を養ひ、坐作進退の行儀を練ることに注意せねばならない。

姿勢は藝能科に於いては單に衛生保健の上からばかりでなく、能率的とか、藝術的の立場からも注意せねばならない。即ち仕事に對する氣魄や氣合や慎み等の心構の現れとしての體の構として、精神的で合理的で自然に安らかであるやう指導せねばならない。又机、腰掛の關係に考慮を拂はねばならぬことはいふまでもないことである。

又藝能科は主として特別教室に於いて行はれる關係から、兒童の心理上に變化を及ぼし稍よもすると喧騒に互つたり、或は整理整頓、仕事の後始末等怠り却つて悪習慣を形成することにもなり勝である。本校としても此の点に格段の留意を拂ひ次の如き方法を試みてゐる。

#### 1、周到なる準備

特に藝能科に於ては用具材料等の物的準備を必要とする。これらの不用意から兒童に隙を與へ其の態度を亂すが如きは最も留意すべきことである。必要に應じては兒童に補助せしめる等して其の完きを期すべきである。

#### 2、特別教室の管理

特別教室の管理は該科主任責任を以て之に當り常に所定の位置に所定の器具器械が整備され、利用に遺憾なきやう努めてゐる。尙使用後の状況については使用學級の受持或は兒童に報告し揭示して、道具の整理整頓或は愛用するの精神を養ふやう力めてゐる。今揭示の例をあげると、

○何年何組、二番、九番鉋の刃を出してあつた。

○何年何組、落し針 何本

○何年何組、寫生用腰掛不整頓 三

#### (四) 用具、材料

用具についての名稱、構造、使用法、手入法、保存法から、物によつては分解、組立、修理についても適當に指導すると共に、これを手の延長として大切に愛護させねばならない。特に古來道具を單なる手段としての器具以上のものとして尊重し、むしろこれを神聖なものとさへ見てきた傳統精神を重んじて、用具愛用の精神を養はねばならない。

以上の精神を涵養する意味から本校に於いて心懸けてゐる点を述べると、第一に用具愛用の精神訓練である。これは教師の不斷の指導と垂範とを必要とする。用具に對する教師の敬虔なる態度は必ず兒童に引き薫化をもたらしものと信じてゐる。次には用具の整備といふことが重要と考へる。個人用具にせよ、學校用具にせよ贅澤は排すべきであるが、使用に堪へない不完全なものを所持使用させることより、用具を粗末に取扱ふ悪習慣をつけることは戒むべきである。尙學校備へ付の工具は責任を以て使用させ又修理手入もなすやう指導してゐる。

材料については其の性質を明かにし、物の理に循つて造る態度を養ひ、常に製作に即し技法に關聯しつゝ種類、特性、保存等について指導しなくてはならない。又材料を單なる自然の物質、製作の手段として見るのみでなく、古來これを自然の恩恵と感じて來た傳統に鑑み、單なる經濟的意味ばかりでなく、精神的な立場からも資源愛護、廢物利用等の態度を指導して行きたいものである。

低學年に於いては色紙袋を持たせ一片の切紙屑も保存させ、中學年に於いてはボール紙の裁屑或は木竹片も廢材箱に收め他日の用に供してゐる。習字に於いて用紙の無駄なきを指導することは勿論である。

#### 五、他教科他科目、儀式、學校行事との關聯

藝能科及び其の諸科目はそれ／＼独自の價值と組織とをもつものであるから、他によつてこれを歪められる如きことな



く、夫々に於いて陶冶價值を發揮すべきことは勿論であるが、これが爲に偏狭な科目制の流弊に墮することは、國民學校の精神に鑑み深く戒めねばならない。藝能科の諸科目はその作業的性質故に他教科他科目、學校儀式行事等と殊に密接な關聯あることを辨へ獨自の特色を保ちつゝ、それ等と自然にしてしかも必然な關聯を保つて行くやうにせねばならぬ。

#### 1、國民科との關聯

藝能科は國民的情操を醇化し、高雅なる趣味を涵養することを目的とする。随つて國民的感動を通じて國民精神の涵養を意圖する國民科とは最も密接な關聯がある。特に道德的情操を陶冶し、國民の品位を高め、また、我が國家家庭生活の醇風美俗を發揚し、婦徳の涵養に資する等の点に於いて關係深いものがある。更に國民科の内容を作業化して之を體得させることによつて、その鑑賞や理會を徹底し、表現の力を鍊成する上に貢獻する所が多い。次に本校に於ける留意点をあげると、

イ、御製、和歌、詩等の誦讀

修身、國史、國語等に現れたる御製、和歌、詩等は時々誦讀させることにより其の感動を深からしむ。

ロ、裁縫科に於ける禮法其の他の指導

裁縫室に於ける坐作進退を禮法實踐の機會と考へ、又廢物利用、つくろひの仕事を通しては婦徳の涵養に資する。

#### 2、理數科との關聯

藝能科は物を素材とし、道具や機械を手段とし、それ等の理法に循つて創造し形成することを本質とする。用具材料の理法に循ふためにはそれを明確に知らねばならず、そのためには、これを觀察し、思考し、理解する理數科的修練を必要とする。又創造するためには理數的な原理の應用を必要とする。機械の理會や取扱を要素とする工作はもちろん、音楽、

圖書等に於いても、この合理的な創造的な態度の修練はいよゝ必要とせられる。

教科書に於いても此の点の考慮は多分に見られる。これを扱ふに當つては其の精神を體し關聯による教育的意義を發揮するやう力めねばならない。

#### 3、體鍊科との關聯

藝能科は身體の行動を通じて、藝術技能を修練させ、體得させ、心身一體の境地に至らせることを志すものである。この点に於いて體鍊科と關係がある。

又作業による心身の鍛鍊、姿勢の訓練は勿論、團體訓練時に於ける音楽行進、軍歌行進等は極めて關係が深いものである。

#### 4、儀式、學校行事との關聯

儀式、學校行事は多く音楽を伴ふものである。随つて歌曲演奏による敬虔の心情、愛國精神の涵養に資し、また、これによつて感情及び行動を統一し以て團體訓練に資する所が多い。此の意味より日行事としての朝禮或は全校訓練時に於いて御製の奉唱、愛國歌其の他の唱和訓練を實施してゐる。因みに本年四月よりの唱和教材を挙げると、愛國行進曲、國民進軍歌、青少年團歌、太平洋行進曲、海行かばである。

#### 六、設備、材料

藝能科に於いては教科の性質上相當の物的設備及び材料が必要である。本校に於いては町當局並に保護者會其の他の援助を得て、大體文部省案を標準として、整備につとめてゐる。然し未だ經費其の他の關係で不完全な状態である。

次に材料の問題であるが、これまた時局關係にて十分に且つ容易に得られぬことは、止むを得ないことである。然し材



料の入手困難の故を以て教材を略するが如きは戒むべきことで飽くまでも教育的熱愛により最善の策を講ずべきである。

### 七、藝能科時間割の編成

藝能科教育の振興を圖り其の能率を増進し目的を達成するためには、其の施設と共に時間割編成が重要な問題と考へる。特に準備と實習時間の多きを要する圖書、工作、裁縫等に於いて其の感を深くするものである。例へば一週二時間の圖書或は工作等を一時間宛離して配當するよりも、二時間連続の授業として配當する方が遙かに能率の場合が多い。本校としては四年以上の圖書工作裁縫は二時間連続して配當し、女子の圖書工作も続けて配當し、必要に應じ、一科目二時間連続の授業も出来るやうにしてゐる。尤も此の場合には隔週に科目を繰替へることとなる。三年以下に於いても必要に應じ右の趣旨に基くことが効果的であると思ふ。

### 八、教師の修養

藝能科使命の重要性と教科内容の進歩増大とに鑑み、教師の教養は一段と高きを要求される。制度の改善も設備の充實も一切はこれを運用する教師其の人によつて生かされるものであるから、教師の高い教養や高い識見こそ、藝能科振興の鍵といはねばならぬ。

本校に於いては次の如き方法により職員該科修養研究につとめてゐる。

#### (一) 教科書並指導法研究

國民學校教科書並に教師用書が非常なる努力研究により編纂されてゐることはいふまでもないが、特に教師用書は其の指導精神より一々の教材解説に到るまで懇切を極めてゐる。随つて此の教師用書を唯一の参考書と考へ、これを研究することより、其の指導精神も、指導の方法も、或は技法も體得するやう努めてゐる。尙授業法の實際研究については校内に

て或は講師を招いて指導を仰いでゐる。

#### (二) 鑑賞研究

藝能科に於ける鑑賞の重要性は既に述べたところであるが、此の指導の効果如何は教師の鑑賞眼の深淺に俟つところが極めて大きい。此の意味に於て、職員がレコード鑑賞會(主として國民學校音楽音盤)繪畫(國民學校鑑賞會)書道等の鑑賞會を随時催し教師の修養に資してゐる。

#### (三) 製作修練實習

本科の性質上製作修練の重要性はまたいふまでもないことである。局言すれば教師の修練が即ち本科の振興を左右するといひ得るのである。かゝる意味から標本の製作、鑑賞品の作製には特に意を用ひてゐる。

其の他視察講習會等に出席して其の識見を高め、學校内の音楽會、展覽會等を教師の實力養成の機會とも考へてゐる。

## 藝能科音楽に於ける和音訓練

### 一、階名唱法(移動式)の根本的誤謬

今日迄行はれて來た學校音楽教育である移動階名唱法の根本的誤謬を最初に検討して見たいと思ふ。明治十八年文部省に於ては洋樂を國民教育音楽と定めて今日に至つたのである。之を教へるのにピアノ、オルガンを使用し、ドレミファソラの所謂音階を使用して唱歌教育をして來た。即ち文部省に於て唱歌科施行細則を規定し、

「簡易ナル歌曲ヲ歌フ能力ヲ得シメ兼ネテ美的情操ノ陶冶、徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ目的トス」此の目的に合致すべく單的にメロデーの教授に取りかゝつたのである。其の爲に何調でも融通性に富んだ音階に依つて、階名指導をして來た



簡易なる歌曲を教へさへしたら良いと言ふ、簡単な考へ方から、如何なる調子でも、如何なる歌曲でも皆ドレミファの階名に依つて一切合財片づけられた。例へば「春風」と言ふ歌曲について見ると、

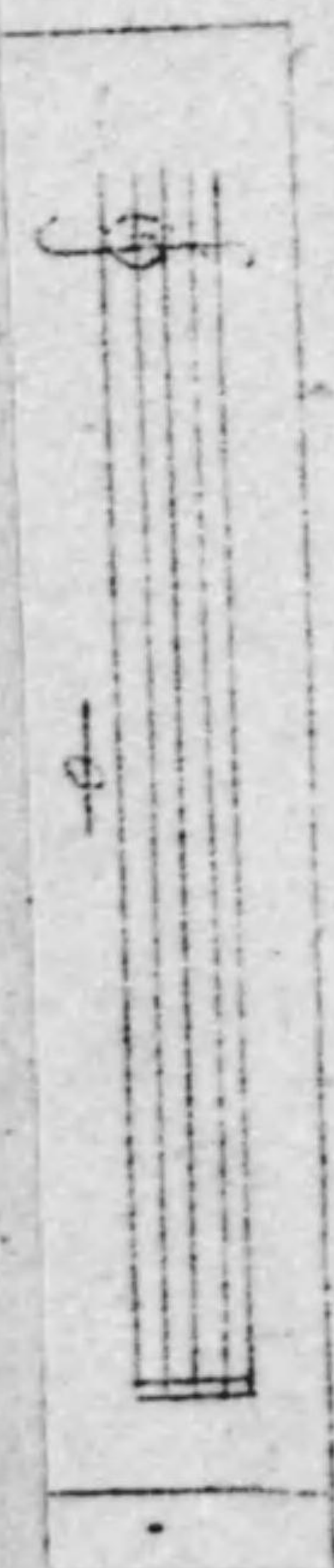
ハ調で書いた時もドレミファ  
ニ調で書いた時もドレミファ  
變ホ調で書いた時もドレミファ

にて歌はせ、如何なる調子も皆七つの階名にて用を足した。之は一見非常に便利な感がある。即ち七の階名を覚える何調でも簡単に歌へると言ふ長所がある。又單音のメロヂーを簡単に教へ込む爲、單一なる旋律唱法の目的へ直行した。然るに曲りなりに歌ふ事が出来たとしても、いさ聴音となると極めて困難である。今或る一つの旋律を演奏すると、

ハ調の如くでもある  
ト調の如くでもある  
イ調の如くでもある  
變ニ調の如くでもある

と聴手は思へる。猶更に一個の音になると判別する事が不可能となる。例へばハ調のド即ちハの音を鳴らすと聴手は「ド」でもあり「レ」でもあり「ミ」でもあり「ファ」でもあり「ラ」でもあり「スイ」でもある。之の如く階名唱法で指導された者は總てが判断がつかないのであるし、又讀譜の場合所謂目で見たと時には次の如くである

ハ調の時はド  
ニ調の時はスイ(＃)  
ホ調の時はラ(＃)  
ヘ調の時はソ



ト調の時はファ  
イ調の時はミ(＃)  
ロ調の時はレ(＃)

其他嬰種、變種の場合も同様、一つの音に幾通りもの名が附いて居る。何調でも一つの階名で讀譜出来ると言ふ便利な反面に、如何なる音を聴いても結局、何の音であるか判断がつかなくなると言ふ混亂を招くに到つた。即ち、旋律を簡単に歌はせる爲めに使用した階名唱法は一つの音も、調子も、勿論二つ以上の音の合成音(和音)も判別し得ないと言ふ驚くべき悲しむ可き結果を生み、又全々音を記憶する事が不可能であると言ふ結論を生じたのである。

國民學校に新らしく採用される事になつた和音訓練は、從來の階名唱法の缺點を救済する爲めに設けられた如きもので第一に音名の固定、一音一名となし、和音の聴音、和音の書取り、和音の分散、抽出力に依つて讀譜其の他の演奏をなす教育法である。即ち音名の固定(一音一名)する事によつて合成音たる和音名も固定し、同時に響(音高)も固定する事となる。其れ故一音一名、一和音一名である故、之を反覆練習する事によつて、記憶へ迄、到達させるのである。其の音を土臺として、總ての音楽作業を始めるのが、即ち和音訓練であつて從來の移動階名唱法とは根底から相反するものである。

音楽教育の基礎は、



の頭の働きに變更される事になる。



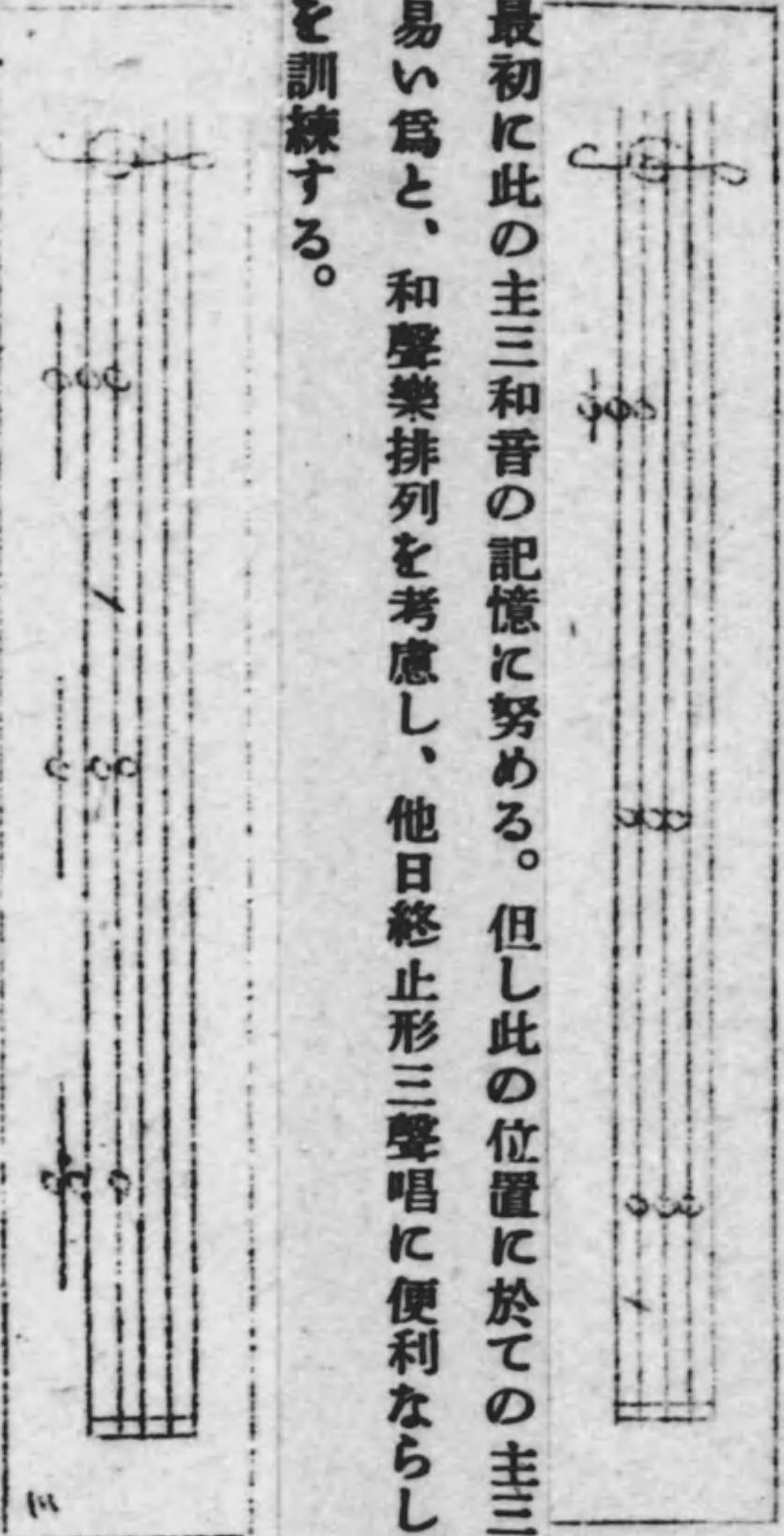
- 即ち和音教育は要約すれば、
- 一、階名唱法の讀みの混乱を救済する。
  - 二、音の記憶を確立する。
  - 三、音程の把握を簡易ならしめる。
  - 四、和音の教授を合理的ならしめる。
  - 五、旋律と伴奏の關係を正道に導く。
  - 六、旋律音楽の退屈を是正する。
  - 七、合唱教育を容易にする基礎をつくる。
  - 八、音楽的發展への確固たる土臺となる。

## 二、和音聽音

音名を固定する事によつて、合成音も固定される譯である故、此の音名、和音名に依つて、響の記憶に努める。所で單音の音高よりも和音の音高が記憶し易いのであつて、音響學的に最も記憶し易いのは、不協和音乃至は噪音である。即ち不規則な振動を持つた合成音は、最も記憶し易いのである。次には不完全協和音、其の次には完全協和音の順序だと思ふ不完全協和音（和音）は記憶もし易いし、又將來音響的發展へ一石二鳥の効果がある。其れ故最も便利な不完全協和音を三和音に求めるのである。

音名が固定され和音名が固定されたならば、第一着手として、音名讀みの練習、和音の記憶を目的とする聽音訓練をする。數多の和音中最も大切なものは、其の調子を決定する或は其の調子を構成する主三和音である。主三和音は其の調子を決定する重大な和音であり、隨つて音階の總ての音を含んで居る。

最初に此の主三和音の記憶に努める。但し此の位置に於ての主三和音はへ調、ト調の主三和音である爲に響の記憶を誤り易い爲と、和聲樂排列を考慮し、他日終止形三聲唱に便利ならしめる二つの利益より、次の如く位置を轉回して其の記憶を訓練する。



此の三和音を教へ、順次に幾度も反覆して響を記憶せしめる。幼兒は此の單音三つの合成音を一つの響として、一つの音として記憶する事になる。

此の三個の和音が決して誤りなく、如何なる順序に弾いても判るやうになつたら、今度は此の和音を分散して歌はせる即ち次の表の如く發唱させる。



各和音が如何なる形にも分散する事が出来るやうになつたら、





今度は抽出唱を課す。三和音中より教師の求める音を出させるのである。即ち兒童が、

- 一、音名を覚え又音名リズム讀みを感じた。
- 二、主三和音の聴力がついた。
- 三、和音の分散唱が可能である。
- 四、和音中より如何なる單音も抽出可能としたならば次の圖の如くなる。

(註 聲 調 ヲ)

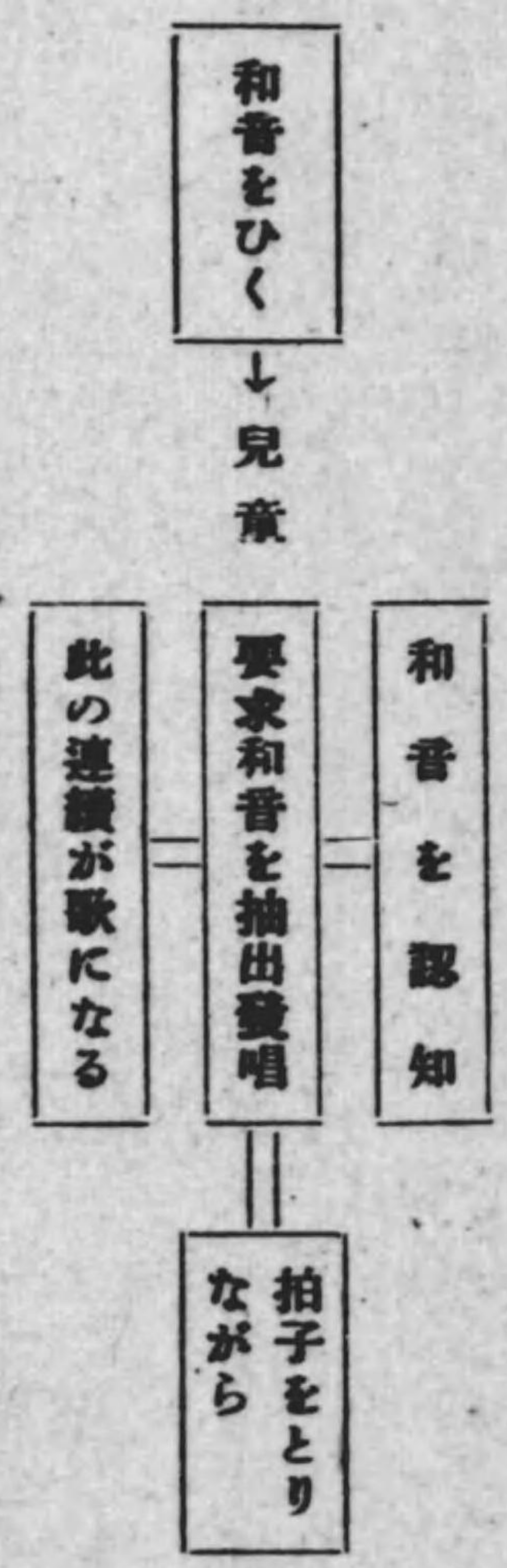


正しく拍節讀みが出来た様になつたら、教師は和音をひき、旋律に要求されたる音を抽出唱によつて要求すれば、次の譜表の如く發唱する。

(拍子をとりのながら抽出唱)



もし右の事柄が可能であるとすれば、兒童の頭の働きが次の表の如くなる。



此處で考へなければならぬ事は、右の表で判る如く一つの旋律を歌ふ爲に先づ和音を認知しなければならぬ。此の和音を認知し得なければ、單音の發唱が出来ない所に、和音と旋律の密接不離な關係を作るのである。其れに抽出唱が自由自在となれば、音名讀みの力と併せて讀譜視唱が可能となるわけである。音名も和音名も固定されてある故に、歌ふ度に、弾く度に、和音を聴音する事は、愈々其の和音を記憶する事になる。和音を認識する力が附けば附く程、單音が抽出し易くなるのである。此の關係を繰り返す事が頻繁になればなる程、今度は記憶が確實となるから、和音を與へなくとも、頭中にある音感に依つて、歌つて行けるわけである。遂に頭中に單音さへ、勿論和音さへ記憶されてしまふ事になる。其れ故に突然に或る音を聴いても、或る音は何であるか判る。又合成音も判断される。何處に於ても、何時でも、樂器の力を借りずに歌が歌へる。其れは文字を記憶し、文章を記憶するのと同様である。即ち之を要約すれば、

- 一、音名を固定して覚えさせる。
  - 二、音名のリズム讀みを可能ならしめる。
  - 三、和音を記憶させる。
  - 四、和音の分散唱を課す。
  - 五、單音の抽出唱を課す。
- 以上の課程を反覆練習をする事が、和音教育の原則的理論ではないかと思ふ。此の教育は一般社會に甚大な影響を與へ



此の原理が戦争に影響し、産業界に影響する事を確言出来ると思ふ。又此の教育によつて、日常のサイレンの音高も、飛行機の爆音も、自動車の爆音も樂々と記憶出来てこそ、始めて和音感教育は徹底した事となる。

和音訓練をする場合の注意事項としては、

- 一、一度に幾十返も連続練習を行はぬ。
- 二、前和音の答が解つて後次の和音を弾く。
- 三、主三和音が記憶し得ぬ事を早期に失望せぬ事。
- 四、人真似、誤りを無暗に止めぬ。
- 五、人の真似をするな
- 六、出鱈目を言ふな
- 七、和音を弾く場合、ピアノを長く弾かぬ。
- 八、和音聴音は出来る限り他の作業と結び付けて行ふ。
- 九、出鱈目な高さ(ピッチ)で和音を歌はせぬ事。

### 三、分散唱訓練の實際

和音聴音と並行して、和音の分散唱を授ける。即ち和音を單音に分ける能力を附ける仕事である。和音は三つ以上の音の合成音であるから、その合成音を單音に切り崩して行く方法であり、丁度全體より部分に入る仕事である。心理學的に和音は記憶し易く、單音は記憶し難いのである故、つまり易より難いの過程を辿るのである。

兒童は、此の和音中より正しく單音を抽出する事に依つて合理的音程練習への段階を踏む譯である。又和音中より自由に單音を抽出する、單音抽出發唱の前提として愈々旋律と伴奏の基礎的養成の段階に入る譯である。和音中より自由に單

音を抽出、分散すると言ふ、未だ嘗つて吾が國音樂教育では試みられなかつた、實に革新的教授法である。

例へば一つの音として聴かせ記憶せしめた和音は次の譜の示す如く單音に分けて歌はせるわけである。



右の圖の如く、教師は最初和音を兒童に判別させ、次の和音を弾き乍らハ、ホ、トと歌つて聞かせる。初めは口授しても良いと思ふ。今迄は音名、和音聴音と教師が實際唱歌する事は無くてすんだが、今度は是非教師が、三和音中より、歌ひ初めのハを把握しなければならぬ。

斯の如く和音を單音に分散する事を繰り返して居る中に、今度は範唱してやらなくとも、自由に歌へるやうになる。此の時、豫め教師が單音でピアノを弾いてはならぬ。兒童が歌ふ時は常に和音を弾き、其の正否を檢定する時には、單音で弾いても良いし範唱するのも良いと思ふ。兒童には常に和音を分散させる考へ方を捨てないで、もし兒童が正確に分散、抽出が出来ない時のみ、範唱範奏に依つて、その不正を訂正してやれば良い。

一個の和音が下から上へ歌へる様になり上から下へ、中より上下への六通りに歌へる様指導する。



即ち總ての和音の一つ／＼が、皆六通りに分散唱が可能になるやうに訓練する。和音教育に於ける音程練習は、此の分散唱の各音が、正確な高さを持ち得るやう訓練するのが在來の音程練習に相當するのである故、教師は分散する各音の高さを訂正してやらねばならぬわけである。



或ひは又、分散する事を別の観点から眺めたら、此の分散唱は興味的な和音聴音練習である事に気付く。もし兒童がハホトの分散をしやうと思へば、第一にハ、ホ、トの和音であると認知する事が第一條件である。又各單音を正確な高さに歌ふ事を欲すれば欲する程、良く和音を聴き取る事が必要となつて来る。即ち正しく歌ひ度い目的の爲め、眞剣に聴く事が必要になる。之が立派な和音聴音訓練である。

又一方和音中の單音を、自分自身で歌ふ事が又大變和音の記憶するのを助ける。此の作業を繰り返して来るに随ひ、和音の音高が耳に固定して、遂には突然に、何等のピッチを與へなくともハ、ホ、トの分散唱が出来るやうになり絶對音の經過を辿る事になる。

分散唱を行ふ場合の注意事項として、

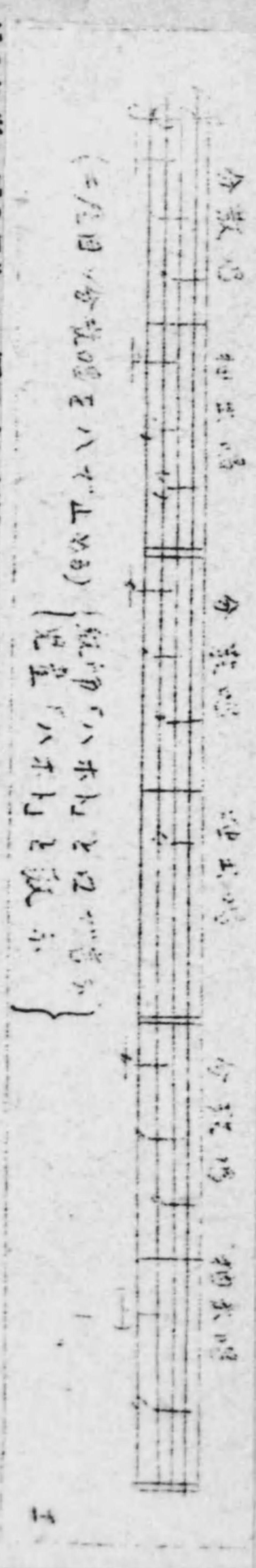
- 一、間違つても良いから大膽に歌はせる。
- 二、分散唱の訂正は嚴重でなければならぬ。
- 三、和音の眞中の音より始まる音には、歌ひ出しに特に工夫すべきである。
- 四、分散唱の際、音符を變へてやれば、同時にリズムの練習にもなる。例へば、



#### 四、單音抽出唱訓練の實際

次に抽出唱についてであるが、分散唱の順序を良く考へて見ると分る如く、抽出力、分散力は殆んど同時につくと見なければならぬ。ハ、ホ、ト、を分ける事は分散力であるが、和音を聴いてハの歌ひ出しが判る事は既に抽出力のある事を

意味するものである。又和音の眞中の音、例へばホの歌ひ出しが判つて来る事は、又抽出力を證明するものである。此の抽出唱の指導として次の方法が効果的であると思ふ。



此の方法を他の和音にも適用して次第に自由ならしめる。

其の過程を経たならば、今度は自由にハ、ホ、トを各々要求する。分散唱同様、次第に程度を高め、何の音も自由に抽出出来るやう訓練する。此の抽出が自由になれば、如何なる和音からも、同じ單音が發唱出来る様に指導するわけである。其れが可能になれば、そろ／＼讀譜視唱が可能になつて居る事が分る。即ち和音を伴奏として、單音の讀譜視唱が可能になるのである。

例へば次の旋律を與へた場合、



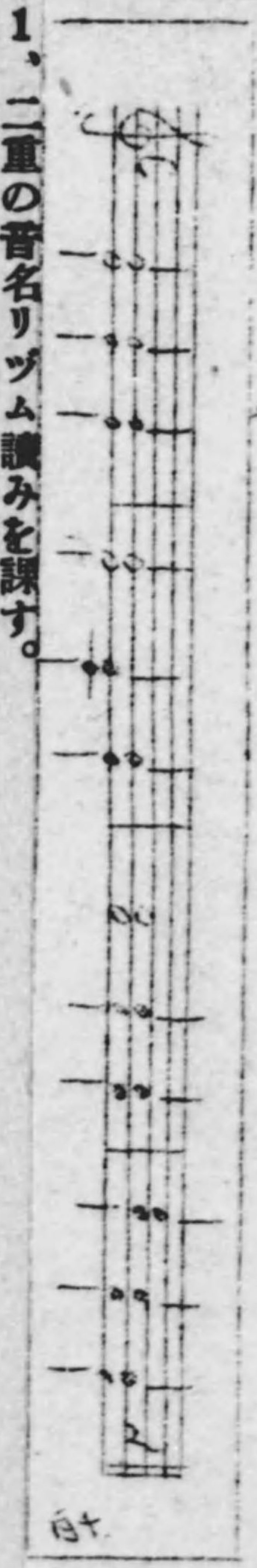
- 一、音名のリズム讀みを正確にさせる。
- 二、此の旋律の母體の和音の明示。
- 三、和音の單音抽出唱。





右の如くリズムが正確にとれて、和音中より單音が發唱出來さへしたら、音程の困難と言ふ事は無いのであるから、容易に視唱が出来る。在來の如く、只箴から棒に旋律のみ強制的に教へたのと、根本的に大變な相違である。而も正確に讀譜させる爲には、在來の讀譜視唱の何分の一かの努力で足り、其の効果は將來に向つて何十倍もの能率を約束し得るのである。

次に合唱訓練への抽出唱としては、次の方法が考へられる。  
例へば二重唱訓練の場合、



- 1、二重の音名リズム讀みを課す。
- 2、和音の聽音（此の曲に要する）和音の辨別。
- 3、ハ、ホと二組に分け別々の抽出要求（同時發唱）或はホ、トとかにする。
- 4、リズムに合せ和音の伴奏に依り視唱。

右の場合兒童は單音よりも歌ひ易いのである。何故ならば知つて居る和音の中、二音が聲に出て居るのである故、音程の把握が容易になる。同様に三重唱は猶更簡單に歌へる譯であり、三部に歌ふ事に依つて、和唱を其のまま認識する事になるからである。其れ故三重唱は殆んど和音の伴奏を必要としない。

以上讀譜視唱はとりもなほさず、抽出唱の應用問題と考へる譯である。

### 五、書取り訓練の實際

和音の書取り練習は、和音を教へると同時に始めるが、初歩は其の過程として、カード拾ひ等も効果的である。然し初めは模倣より始めて結構だと思ふ。

- 一、和音書取りは、印象を深めしめる。
- 二、兒童の實力テストになる。
- 三、音名の練習となる。
- 四、譜面と響の渾然一致を意味する。
- 五、抽出唱、分散唱を助ける。

書取り練習の初歩は、次の如く指導する。  
一、和音を教へると同時に、ハホトと譜に書いたのが、ハホトの和音であると、理屈なしに形として教へ込む。故に和音の一つを教へたらば、樂譜を板書して、幾つも、同じ和音を書かせる。こんな風に書いたら、ハホトであると思はしめたら足りるのである。

### 二、譜の書方指導

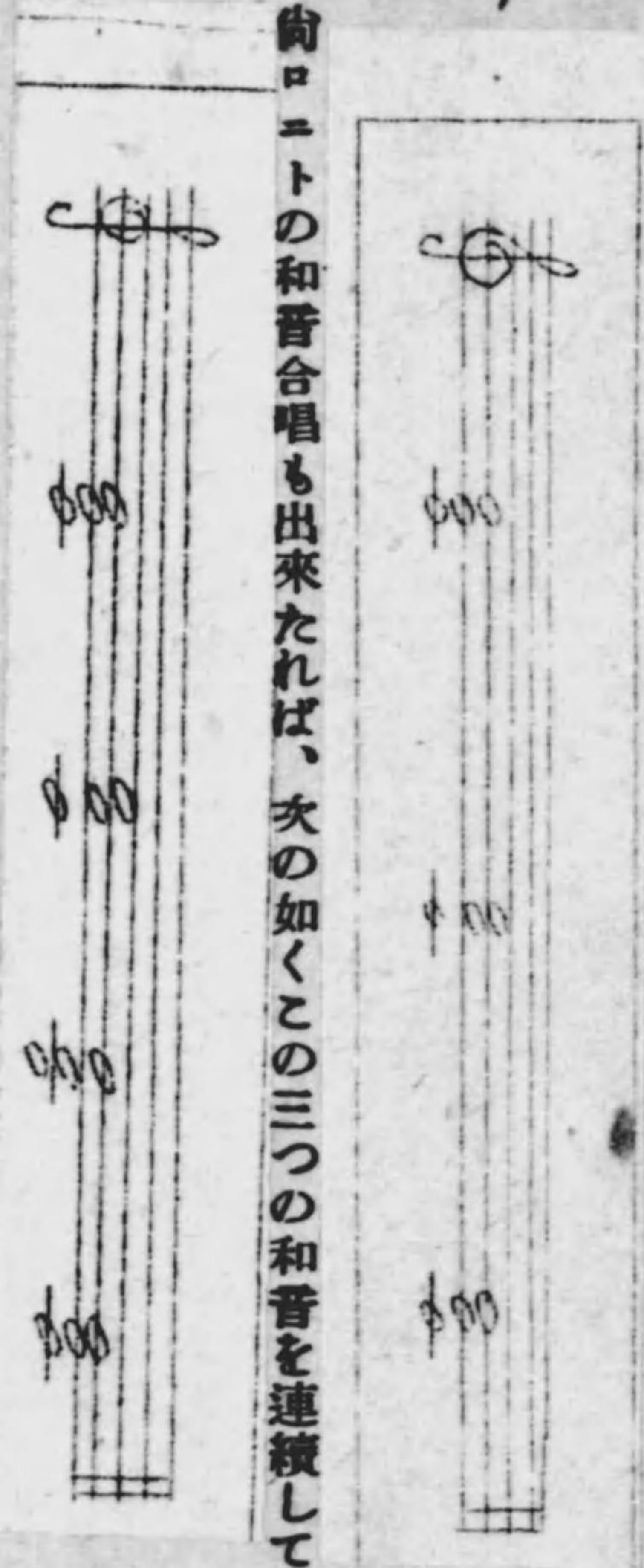
- 1、全音符は間（四間）より始めて一杯に書く。



- 2、加線は五線の幅を考へて書く。
- 五線は二十耗、十耗、普通と次第に小さくする事。
- 3、音符及び和音は左から右へ順序良く、初歩の間は縦線を引いて番號を記す。
- 4、鉛筆は2B位の柔い物を使用。
- 5、初めは丁寧にゆつくり、次第に早く一秒間に二つ位書ける迄反射的に行ふ。

## 六、和音合唱訓練の實際

分散和音唱、單音抽出唱の次に來る取扱ひは「和音の立體的な扱ひ」即ち和音合唱である。この和音合唱がやがて歌唱に於ける合唱指導の基礎となるのである。和音合唱は始めは第一の音、第二の音、第三の音を同時に唱ひ出さず、先づ第一の音を發唱し、次に第二の音、讀いて第三の音といふやうに繼時的に唱ひ出す。此の繼時的合唱が出来たならば、今度は和音の同時的に合唱する。繼時的合唱は第一音を基準とする故第二音は發唱し易く、同時に第二音を基準にするから第三音が唱ひ出し易いのである。然し同時合唱は、兒童の頭にはつきりとした基準となる音が求められない故、唱ひ出しの音をつかむ事が困難な譯である。然し此の際第一、第二、第三の單音を別々に鳴らして聽かせる事は同時合唱としての効果を殺ぐこととなるから禁止すべきである。兒童が和音中より、自分の唱ふべき音をつかみ出す事が不可能な場合は、教師が發唱して、兒童に其の音を示すやうにする。合唱の基礎準備としての和音合唱の指導に於ては、殊に和音の響の中に自分の唱ふ音を、はつきりとかんで居て、而も他の音を聽き別ける態度へ導くやう指導しなければならぬ。「和音合唱」の次は「和音の連続合唱」へ進むのである。例へば、ハホトの和音合唱も出來、次にハヘイの和音合唱も出來たならば、次に示す如くこの二つの和音を連続して合唱する。



尚ロニトの和音合唱も出來たれば、次の如くこの三つの和音を連続して合唱練習をなす。

此の和音の連続合唱は、この次に指導すべき「終止形の合唱」への發展過程となるのである。「終止形合唱」は單なる和音の連続ではなくて、和音の連続の仕方に意味を持つ、つまり和音の連続の仕方が音楽的に連続して居る。従つて終止形といふものは、和音の單なる連続ではなくて音楽的表現なのである。

「終止形合唱」を更に音楽的に發展させれば「三部合唱」となるのである。つまり三部合唱は終止形合唱に於ける音楽的な意味又は音楽的な表現を擴大したものと考へられる。

従つて三部合唱への直接的な基礎練習は終止形合唱である。終止形合唱をしつかり指導する事は、それだけ合唱を容易ならしめるものである。

合唱指導に重要な條件としては、

- 1、音程が正確に唱はれなければならぬ。
- 2、發聲に於ける音色が美しく又、良く融け合はなければならぬ。
- 3、律動が正確に唱はれなければならぬ。
- 4、聲量が均齊を保たねばならぬ。



5、和音が響かなければならぬ。

### 七、採点法に就いて

尙特筆すべきは音感教育が聴覚訓練に、出發した結果、考査も次の諸點から採點し得る事である。唱詠一天張りて聲を

出して唱ふ事を唯一の音楽教育とし、唱歌に依つて情操を養ふ事のみが音楽教育の目的であるかの如く考へてしまひ、歌へない爲に落第點を貰つて居た等、實に音楽教育の冒瀆であつて噴笑せずには居られぬ。  
兎に角、和音聴音、唱詠各方面に立脚して採點し得ると思ふ。

採 點 法	
讀 詩 力	
リ ズ ム 感	
和 音 感	和音聴音
	抽出唱
	分歌唱
	和音合唱
唱 詠	均
平	

### 八、結 び

以上和音教育の基礎練習に就いて横の線のみ考へて見たが、縦の線即ち學年的に考へた時に、其處に兒童の能力に應じた所の學年的に發展した順序正しきものがなければならぬ事は言ふ迄もない事である。

今迄の教育が傳統的に永い間、旋律とリズムを主とした教育であり、重要な和音教育を忘れ、音痴で無い者をば、單に聲を出して唱歌を唱へないと言ふ一事を以て、無慘にも不具同様の取扱ひをなし、隠れた天才の芽をむざ／＼葬つて來たかに思ひを致さなければならぬ。現在迄の兒童の音楽力より遙かに高度の音楽力を要求されて居る事を併せ考へ、慎重に基礎訓練を確立するにあらざれば、國家の要求に應じ得る事は不可能である。

國防に、産業に、一般生活に鋭敏なる聴覺を要求されるや切なる今日、幼少の頃より「合理的」にして「興味的」なる音楽教育に依つてのみ、最短期に、最能率的に此の要求を満足せしめ得る事だと思ふ。

新しき方法、新境地の開拓、新しき世界の再建を念願する者が、努力なしに、困難なしに成し遂げ得る筈は無い。絶えざる熱と迫力とを胸に燃やして大いに信じる道に突進すべきである。

## 習字教育に於ける躰に就いて

### 一、國民學校令施行規則第十五條

藝能科習字ノ目的及教材

藝能科習字ハ文字書寫ノ技能ヲ修練セシメ鑑賞スルノ能力ヲ養ヒ國民的情操ヲ醇化スルモノトス

初等科ニ於テハ「カナ」楷書及行書書ノ法ヲ授クベシ

高等科ニ於テハ其ノ程度ヲ進メ更ニ草書ヲ加フベシ

國民科國語トノ關聯ニ留意シ生活ノ實際ニ適切ナルモノヲ選ブベシ

### 二、習字教育の目的 (教師用書中より)

習字は沈着の態度を養ひ、精神集注の習慣を作り、又靜肅、清潔、整頓等の美風を養ふことが出来る。尙用具の尊重愛用の念を養ひ、更に姿勢を正し、躰を重んずる等訓育的價值が大である。之を要するに習字は、訓育的立場から心身一如の「行」として修練せしめねばならない。即ち一点一畫と雖も忽にせず、心技一致、澄心靜慮、以て道を行するのである。かくして精神の修養を積むと同時に、一方では「正しく、美しく、速く」書き得るやうに書寫技能を修練して、日常生活に於ける文書通信等の實用書に至る迄、熟達するやうに力めねばならない。

次に手習ひと同時に目習ひを重んじて、手本の文字や教師の示範文字は勿論、進んでは古今の名蹟や偉人の墨蹟等を鑑



賞せしめて、兒童の情操を醇化し、鑑賞眼を啓培し、或ひはその高風に私淑せしめるべきである。又兒童をして習字の學習に興味を感じしめ、高尚な書道趣味へ導くと共に、工夫創造の能を養はねばならぬ。

### 三、習字教育指導要項

#### ◎第一學年指導要項

- 1、用具の名稱及び取扱ひ方を指導する。
- 2、書寫態度の養成に力める。
- 3、運筆の自由暢達をはかる。
- 4、興味的學習から次第に規範的學習に導く。
- 5、片カナ學習及び楷書の基本的陶冶をする。

#### ◎第二學年指導要項

- 1、用具の取扱ひになれさせる。
- 2、書寫態度を確立する。
- 3、自由暢達な用筆から次第に整つた結體の學習に導く。
- 4、平カナ單體の正確な書寫を指導する。
- 5、平易な漢字の楷書及び平かな交り教材の修練をする。

#### ◎第三學年指導要項

- 1、用筆法の基本的鍛錬に力を注ぎ、簡単な結體上の諸法則を知らせる。
- 2、學習は合理的に導き、練習に重きを置く。

- 3、練習は靜肅に行ひ、心手一致を旨とす。
- 4、隨時背臨をも行ふ。

#### ◎第四學年指導要項

- 1、結體及び用筆法の基本的鍛錬をする。結體上の諸法則は若干の類型によつて知らせる。
- 2、書寫能力の擴充發展に力める。
- 3、背臨と共に自運をも加へ、工夫創作の能を養ふ。
- 4、理會的、自覺的學習へ導く。

#### ◎第五學年指導要項

- 1、新たに加へられた行書教材に主力を注ぎ、行書の基本的用筆並に結體の省略法を授ける。
- 2、漢字楷書の用筆法及び結體法の鍛錬によつて書寫能力の擴充發展に力める。
- 3、練習には背臨及び自運を加へる。
- 4、平易な實用教材を加へて細字を指導する。

#### ◎第六學年指導要項

- 1、行書に主力を注ぎ書寫能力の擴充發展に力める。
- 2、練習に背臨及び自運を加へる。
- 3、全體の布置、調和等に就ての章法を授ける。
- 4、平易な實用教材及び細字教材を加へる。

#### ◎高等科第一學年指導要項

- 1、既習教材の綜合的、應用的修練をなし、又細字速寫の修練をもする。



- 2、行書及平カナ交りを主とし、新たに草書を加へる。
- 3、草書は基本的筆法及結體法を授け、點畫の正しき省略法をも知らせる。
- 4、鑑賞指導は和漢古今の名蹟によつて、書の理會と趣味の涵養とに力める。

#### ◎高等科第二學年指導要項

- 1、草書と併せて實用的な草カナを授ける。
- 2、實用教材は書式に留意し、且つ速寫に熟させる。
- 3、鑑賞指導は、和漢古今の名蹟及び偉人の墨蹟等によつて、書の理會と趣味の涵養並びに人格の陶冶に資する。

#### 四、習字指導の問題

##### ◎心身一如の行

眞の書は、一管の筆に全神全靈を打込み、無我の藝術境のうちに、手指の働きと心の働きとが、一體として活動する時書けるもので、たとへ一点一畫といへども、精神統一の出來ざる限り満足に書けるものではない。

即ち書く以外に、邪念妄想のない、静かなること深山の如く、只紙の音を聞くのみ、この統一無雜にして、緊張しきつた態度であらねばならない、所謂三昧に入ることである。斯くて始めて筆者の性格が文字の上に表はれ、品位ある書が生れるのである。

しかして始めて、東洋的な、日本的な、精神修養は積まれ、高雅な人格は養はれる、これこそ眞の日本の鍛錬道であらう。斯くすることによつて、一面書寫技能は修練され、實用書に迄熟達する様になるのである。

こゝに於て、習字科に於ては學習訓練方面に大いに意を用ひ、本科教育の目的を達成しなければならぬ。

##### (一) 硯 の 方 面

#### 1、用具の整備

習字用として、學校にて當然備ふべき用具を、整備するは勿論なるも、一方兒童としても、當然備ふべき用具を必ず所持する様にせねばならない。用具につきては教師用書に示されてゐる通りである。

特に一般兒童の通弊として、文鎮及び下敷は無くとも習字學習は出來るものゝ如く、考へてゐる向多きも、姿勢を正せば必ず文鎮の必要を感じ、筆のはしり、墨つき等考へれば必ず下敷を必要とし、又筆の保存上より筆巻を必要とする様になるものである。

現在當校に於ては、初等科第一學年を除き、全兒童共用具は全部整つてゐる。

#### 2、磨 墨

學年により異なるであらうが、水の分量は多きに過ぎざる様注意すべきである。なるべく最小限の必要分量とし、早く濃くすることに心掛くべきである。

磨墨に要する時間は五分以内で出來ると信じてゐる。磨墨の方法は、硯に對し墨は垂直として使用するのが最も易く、又速く濃くする点より考へても良法である。

訓練上最も大切な点は、墨を磨つてゐる間に、心を靜かに書の方に向はせて行くことで、兒童が無雜一念となり、書く氣分が漲つた時磨墨を中止することが良いと考へる。

#### 3、姿 勢

「書は態度の藝術である」と言はれてゐる。姿勢は表面的には單なる形であるとしても、これが實に態度の重要な契機である。故に吾々は正しき姿勢により習字の學習が進めらるゝ様殊更の留意と指導とが必要となつてくる。

イ、姿勢及び心構へ

習字に於て姿勢や心構への大切なのは、單に字を上手に書くためでなく、硯として精神修養のために重要であるから



である。随つて姿勢が整はなかつたり、心の沈着を缺いたりしては、その上達は勿論、習字に於ける訓育的價値は望まれないのである。

習字に際しては、先づ姿勢を整へて心を落ち着け、書寫態度を確立することが肝要である。なほ正しき姿勢は、鏝としてなるべく早く習慣づけねばならない。

#### ロ、腰掛けの姿勢

兩脚を稍開いて足を平に床に着け、足先に心持力を入れるやうにする。腰はあまり深く掛けぬ方がよい。上體は腰の上にしつかりと落着けて眞直にし、書く場合は體の重みを稍前方に掛けるやうにする。この時下腹に心持力を入れ、左手の拇指は机の前縁に、他の四指は机の上で紙を押へる。

腹部は机から少し離し、眼は紙面から約三十厘米に保つ。(教師用書による)

#### 4、執筆及び腕法

姿勢が習字に影響を與へること大なる如く、執筆及び腕法の如何も、又其の書に影響するところ甚だ大なるものがある。この点は特に鏝を重要視する、第一期に専ら留意し、指導すべきところにて、この期間に悪習の附かざる様、十分の指導をなくてはならない。執筆及び腕法につきては教師用書に説明が加へられてゐるから、こゝには省略する。

#### 5、準備及び教具

學習準備、及び教具は、鏝方面より考慮しても、又時間方面より考へても、習字學習上見のがすことの出来ない、訓練上大切な問題である。

折角磨墨により統一された心境も、準備が喧噪に陥つては、其の後行はるゝ文字の習練も無價値となつてしまふし、最後の教具も整然と出来なければ、其の授業は鏝の上より觀て立派なものとは言ひ得ない。

#### イ、準備

硯……前時終り次第出して置く。水注ぎが適當である様指導す。

筆……授業の最初に出さしめ、穂に水をつけさせる。

手本・下敷・紙・文鎮……速く、正しく、靜かに準備せしめる。

第一期の鏝を特に重視し、訓練する時代にあつては手本、下敷、紙、文鎮等一々出す順序まで定めて、鏝をすることが最も大切である。第二期以後は、順序は兎に角、雜音を立てたり、無駄口したりする事なき様、敏速に正しく準備出来る様訓練しなければならない。

#### ロ、教具

教具は大體に於て、準備の反對の順序に收むるが最も調子よく、文鎮、用紙、下敷、手本、筆、硯の順が至つて自然の様考へられ、當校に於ては、第一期の兒童はそれによつて訓練してゐる。

勿論、鏝の基礎時代と、然らざる場合とは、其の取扱法を異にするは、前項同様に考へてゐる。

筆を收むるには、其の前に墨をとり穂先を整へる作業があり。硯を收むるには、殘墨の取りかたづけの作業がある。殊に殘墨取集めには長時間を掛けざる様工夫し、特別の指導が必要である。

### (二) 練習方面

#### 1、用筆指導

#### 2、結體指導

用筆及結體法の指導に關しては、教師用書に詳しく説明されてゐる故こゝには省略す。

#### 3、鑑賞指導

一時間の習字の授業に於て、書の鑑賞をなす場合は非常に多い。即ち、



- 手本文字の鑑賞
- 自己書寫文字の鑑賞
- 掛圖文字の鑑賞
- 教師の示範文字の鑑賞
- 兒童作品の比較鑑賞（同級又は他級）
- 現代書家の作品鑑賞
- 古人の名蹟鑑賞
- 偉人の墨蹟鑑賞（人格文字）

等の場合あり、偉人の墨蹟鑑賞は人格文字として、其の偉人の人格に接せしむべきである。其の他は何れの場合に於ても、それによりて、用筆及結體法（第一期、二期の兒童）或は墨つき、章法（第三、四期の兒童）等の指導をなし、各自運腕練習に利するは論をまたざるも、特に鑑賞力の指導、即ち筆力、形之美、氣品（書品）（練筆練心の様）等につき鑑賞出来る様指導しなくてはならない。

### （三）効果的學習

國民學校が、小學校であつた當時、書方は四十五分授業にて、一週二時間乃至三時間課してゐた。然るに國民學校となつてからは、一週四十分授業が一時間となつた。國語科の一分科であつたものが、獨立した一科となつたことは何よりであるが、授業時間の減縮は如何にも残念なことである。従來とても其の成果が、期待出来なかつただけに、現制度下に於ける習字教育の成績こそ、實に心配に耐へぬものがある。

それ故この修練時間の不足を如何にするか、この観点に立ちて、當校にては次の諸点に留意し指導をなし、其の成果を擧げて行くやう努力してゐる。

- 1、一貫せる指導體系に據る取扱ひ  
教科書の研究を十分なし、一貫せる指導體系に據る取扱ひをなすことに、留意しなければならない。即ち、各期の指導方針並に各學年の指導要項につき、研究を十分なし、且つ各教材については、主眼点につき研究を重ね参考教材の取扱ひにも十分留意し、徹底的の指導をなす様努力してゐる。
- 2、教材の輕重と時間配當  
教科書中には、教材として、本教材、補充教材、参考教材等がある。之等の中本教材指導に當りては、學年の主眼点より眺め、指導時間數を合理的に按配して、指導する様努力してゐる。
- 3、躰の徹底  
「態度の藝術」とまで言はるゝ習字は、授業の全過程に於て、一つとして躰を無視して良い様な過程はない。各過程中既に述べし如く、特に訓練を重視すべきは、短時間にして心を落着かすべき磨墨、靜肅にして機敏を要する準備及收具正しく保持すべき姿勢、其の他執筆腕法、心身一體によりて成る書寫等である。これらは第一期の基礎的訓練時代は無論のこと、全學年を通じ最終迄、努力と研究とを重ねて其の徹底を計り、時間的に縮減された習字教育をして、最高度に其の目的を達成する様力めなければならない。當校に於てはこの躰の訓練を要する点につきては特に留意して指導に力めてゐる。
- 4、獎勵法の考究

イ、清書の處理  
習字に興味を持ち、大いに學習せんとする心意氣を高むるため、其の一方法として、こゝに考へらるゝことは、成績



品處理の問題である。

児童の成績品は、添削の上、揭示用成績は別とし、返すものは出来る限り速く返す様につとめ、返す際は必ず一般的の評と、特殊なものに對しては個人的に賞詞を與へるが如くし、大いに興味を持たすと同時に、努力せんとする心情を培ふ様に力めてゐる。

ロ、好科課外指導

當校に於ては、本科に對し、特に興味を持つ児童を集め、週一回課外として特別指導をなし、一つには児童の長所を一層助長し、一つには他生に對し本科の中心人物たらしめ、習字科の進展を圖らんとしてゐる。

#### (四) 其の他諸問題

##### 1、運筆速度

児童は一體に運筆の上で節度を缺いてゐる者が多い。即ち低學年は、概して送筆速きに過ぎ、高學年は遅きに過ぎてゐる。一般的に言ふならば、當地方は遅きに過ぎてゐる様な感じがする。

書道上よりすれば、以上は兩者共に不可にて、所謂適當なる速度を以て書寫する様に、指導しなければならぬ。

##### 2、一字一筆の指導

高學年児童にして、一字を臨書するに、手本を數回見、又筆に含墨すること數回に及ぶが如きこと、應々にして見受けられることである。當校としては、一字一筆の指導に、特に留意し意連の指導を行つてゐる。

しかし場合により、筆を續けること出來ざる場合に到らば、其の際の筆の續け方につき指導をしてゐる。

##### 3、示範

學級児童全體を對象として、前面(黑板上)にて示範の爲、用紙に大書するは、一般に行はるゝも、それには多少の無

理な点がある。即ち、児童は坐席の關係上、常に不利の立場にある者あり、この缺點を除き、且つ用筆法につき、特に指導するため、平面的な机上、又は教壇上にて、一部の児童を集め、示範するの必要がある爲、當校に於ては時折この方法に依り指導をなす。

##### 4、硯箱の使用

硯箱は、訓練上より考へ、児童に所持させる事がよき様に考へられる。但し所持の場合、箱内の整理につきてはどこまでも、訓練上の指導を要することである。即ち、雑然と用具を入れず、授業中は硯石、墨(二丁)太筆、細筆(各一本)の程度となし、さつぱりした内容品としなくてはならない。當校に於ては斯様な考へのもとに、硯箱を使用せしめてゐる。

## 藝能科圖書に於ける着眼

### 一、藝能科圖書の目的に就いて

藝能科圖書ハ形象ヲ看取シ表現シ且作品ヲ鑑賞スルノ能力ヲ養ヒ國民的情操ヲ醇化シ創造力ヲ涵養スルモノトス之を要約すれば、

#### 一、圖書の直接的具體的目的

形象の看取  
形象の表現  
作品の鑑賞  
情操の醇化  
創造力の涵養

#### 二、藝能科各科目全體の精神

創造力の涵養



以上の二方面より考へ得る事が出来る。

之を小學校當時の圖畫に比べて見るに、指導着眼の上にては一見して何等更新された部面無きが如くなれども、此處に國民學校となりて確然と藝能科圖畫に於ける教育刷新の一部面があり、皇國民鍊成の一つの重大な分野となつたことを記憶しなくてはならぬ。

扱て如何なる点が新しき分野であるかと考ふる前に「國家は圖畫科に於て如何なる事を要求してゐるか」の点に於て深く考へて見なくてはならぬ。

こゝに於てか、吾々は更に括眼してこの國家の要求する藝能科圖畫に於ける新指標を見出すことが出来ると思ふ。

即ち國民學校教科其のものに就いて一樣に考へ得るものは、高度國防國家建設に必要な力を養ふこと、更に廣義に之を考へるならば、決戦態勢下に於ける國民教育の歸着点は、皇國民鍊成の一途であつて、總べて國家を中心とした觀點に於てなされなければならぬ事である。この故に從來の個人主義的、自由主義的な總べてを精算して、新しい立場に立つて考へて見なくてはならぬ。故に小學校當時の同一教材にしても、その取扱上すべて觀點をかへて、其の觀點に基づいて中核を擱んだ鍊成行はなくてはならぬ。

國民學校に於ける指導の中心は、どこまでも皇國民鍊成の基礎的修鍊であつて、成人教育ではない事は言をまたない。所謂基礎的修鍊とは、自ら心身一體觀を含むもので、殊に圖畫科に於ける實踐行を通じて一貫した基礎を鍊成し、兒童將來の多様な發展の自つて出づる基礎を作るにより必要な教科としなければならぬ。

無論決戦態下にある現下軍國第一主義は當然乍ら、故意に時局化し、輕佻な地につかない教育であつてはならぬ。圖畫には圖畫としての生命があり、國家の國民教育上必須の分野を擔ふ所以を考へて無暗に新しがり、流行の教育となし、國家の要望に反する様な事は深く慎まねばならぬ。併し反面藝能科圖畫がこの戰爭を機會として質的に更新され、現實の國家活動、國民生活の力動體に力強い輝きを出した点は、忘るべからざる事實である。

これ等總べて國民學校の圖畫科に於けるねらいどきは、教師用書に懇切丁寧に書き記され居るも、只方法上のみ走り中核を失した取扱をなすに至つては、ありし昔の小學校當時の圖畫と何等異なる所なきに至る。

## 二、藝能科圖畫指導の中核

目的觀より來る「形象の看取と形象の表現」がそれであり、尙平易に之を見る時は正しく見る事、正しく現はすことになる。

更に圖畫科として考へる時には、その中核は正しく現はすことが根幹である。

この正しく現はすことを中心として修鍊する事が、やがて正しく見ることの修鍊となり、正しく見ることの修鍊は鑑賞によつて深まり、その間に於て情操の醇化、創造力の涵養にと發展していくわけである。

無論これ等總べて相關的のものであつて、方法上に於てはどれを先にし、どれを後にするといふのではなく、これ等を織りまぜて圖畫の目的を達することが出来るといふ事は言をまたないのである。

新しき圖畫指導として描圖指導、形態指導、色彩指導、鑑賞指導等挙げらるゝも、歸一する所は正しく見、正しく現はすことにある。又これ等には技術だけでなく、智識のみの所もあり、感覺の修鍊によつて實踐實習し、効果を挙げ得るものである。この点今までの圖畫と大いに趣を異にする所である。

## 三、寫生畫に於ける

從來の所謂自由畫的な、藝術至上主義或ひは稚拙感を強調した様な描寫は藝能科圖畫の唯一の目的ではない。

例へば寫生畫にしても、只繪として良ければ實際とは違つてゐても差支へないと云ふ見方をする、だからどの畫も圖面全體から來る感じによつて一樣に氣分本位な畫を尊重して、色彩が良いとか、構圖が良いとか、タッチが面白いとか、甚



だしきは大家の畫に似てゐるとか、ほんの主観から来る、極端に云へば過然結果から来る畫を以つて良いと即断し、そのため殆んどが作畫指導であつた様に思はれた。故に兒童には眞に如何なる畫が良いかを疑問として、只教師の主観による所謂良い繪に近づかうと努力して居た様な趣を持つてゐた。併し一面決してこの方法が圖畫に於ける無價値のものであるとも云ひ兼ねるが、國民學校の圖畫に於いては尙これに優るとも劣らぬ分野がある事を見のがしてはならぬ。これを第三期（即ち初等科四、五、六年）の寫生畫の目的に見るに、

（初等科圖畫二、教師用二十五頁）

實物に即して看取したるものを如實に表現させ、繪畫的な表現と、説明的な表現との基礎的修練をする。  
實物に即して如實に表現させることは、在るがまゝに正しく表はす力を強調し、又どこまでも基礎的修練である点を指摘してゐる。

この中正しく現はす力は小學校當時の圖畫と變りはないと見られる点もあるが、所謂主観を入れない正しい見方の指導練成であつて、兒童の成長に應じての指導による發見的な修練でなければならぬ。故にいつれも完成を過程としての部分である。

正しく如實に表現させる方法として、繪畫的と説明的表現に分けてあるが、子供の繪に於いては或る場合には繪畫的表現と説明然表現と分れてゐない部分もある。只單に繪畫的或ひは主に説明的と見るが妥當と思ふ。こゝにも新しい圖畫の見方がある。

尙正しく如實に表現させる基礎的練成の方法として、

- 實物を正確に精密に表現させる場合。
- 實物の要点を敏速に把握して速寫させる場合。

○實物の美しさを表現させる繪畫的表現。

○實物の圖解をさせる説明的な表現。

○實物の形態色彩明暗陰影立體感質感等総合的に表現させる場合。

○形態を主とする表現  
色彩を主とする表現  
明暗を主とする表現  
分析的表現

の場合をとるとしてある。

こゝに或ひは時間的に修練をつみ、美的に實用的に訓練づけ、分析的に鍛錬し、総合的に發展性を持たしめてある。

表現に當つては各教材に對して要求する主眼を見定め、確とした目標を定め指導に當らなければならぬ。

かくして何の爲めに表現させるか、その元になるものは何か、この方法の中どれに當るものなるか、更にこの時間の重点をつかみ、この重点を効果あらしめなければならぬ。

例へば形態を主とする表現に於て「形を主とした見取圖」を畫かせる場合。

寫生である以上物象をより正確に描現することが大切であり、専門家のやる様な形の歪んだダイフォルマツションや超現實主義は不要であり、兎に角先づ正しく描く事にある。それを今までなされた多くは、総合的な美的な表現であつて、一ヶの對象を美的に置くか、位置に立つて眺めて描くかと云ふ方法のみに過ぎなかつた。これでは形態として正しい把握は深まらない。

果物とか、玩具とか、家具といふものなど誰れが見ても分り易くするため、只一個の形態を片面ばかりで見ることなく、あらゆる角度から眺めた所を正確に描きこなすといふ風にしなければならぬ。



この故に、それが一枚の畫として作畫面白からぬとは見ても、それが修練である以上、數個のものを描かせ、如何に表現上困難を感じるも、其の形態を知り盡す態度をつくらねばならぬ。

初等科圖畫二、男子用二十三圖器物に於けるスケッチ箱の寫生等は其の一例にして、横に、縦に、上から、倒れたものと種々の方面を描く場合を示し、興味本位に走らず所謂形態描寫の基礎的練成を考へてゐる。

こゝに又教材體系上修練を必要とする以上、一つを征服して次に又一つをと積極的に心の修練も加味せられ、全精力を傾注して没我の境に入らしめ、一枚の畫紙に對して兒童の決意を持たせ、心身を一如とした修練をなし、知らず知らずの中に戰爭完遂の心構をつくらすことになる。

又この場合正確を強要する以上、別の方面から不合理な描寫個所も發見して、畫に對する科學性も持たせ、教科書上圖に於ける、透視圖法の如きも頭から理論をおしつけるでなく、視線の位置による變化、或ひは遠近による形の變化によつて理會され、實驗的に實際のものから理法を發見することが出來て、結局に於て自ら描いた畫によつて形態の美を知ることが出來る。

かく分析的に形を元にしたもの、明暗を元にしたものといふ様に、その個々に於ての指導の中心を定め、同様の考へ方で行かなくてはならぬ。

併しそれも主とするものを中心として、それに附隨して他の部面も練成されるのは當然の事で、周圍がなければ中心が無いと同様、形を主とするものに於ても明暗色彩等も時間の都合取扱つても差支へ無いものであり、それがかへつて正しい形を表現するに効果的になる場合が多い。

この故に同一教材にしても別表に於ける如く、その主眼を異にし、系統的に鍛練的に循環性を以つて發展させ、基礎的修練が出来るのである。

エノホン一、 センセイ——寫生の趣味を養ふ。

エノホン三、 友だち——觀察力を養ふ。

圖畫一、 友だち——要点を把握する表現。

圖畫二、 友だちの顔——顔の正しい表現。

圖畫二、 人——短時間の中に一物の姿態の要点を把握表現。

かくの如くして清書主義の圖畫ではなく、過程を重んずる正しい形を畫く基礎的修練が出来るわけである。尙初等科一年より四年に至る寫生題材及目的を表にして見ると、左記の系統を認めることが出来る。

初等科 一年	初等科 二年	初等科 三年	初等科 四年
(エノホン一) 21 センセイ (エノホン二) 2 オイハヒノチョウチン 6 秋ノケシキ 22 オニンギョウ 23 赤イリンゴ	(エノホン三) 6 おともだち 10 なつのはな 16 やささい 23 くだも 24 くだもの (エノホン四) 4 秋のけしき 11 だるまささん 13 小鳥	(圖畫一) 3 花 6 くだもの 9 帽 11 學校の花だん 18 友だち 21 やさしい	(圖畫二) 4 犬はりこ 6 若葉 7 夏の花 10 友だちの顔 12 人 15 神 16 秋のけしき 21 鳩 23 器物 24 はくばくの箱物 25 もくばくの乗物 26 植木の鉢 27 つぼと果物



實物に即して觀察看取したるものを表現せしむる。繪畫的平面上への表現及び形體的立體的表現を意味するのである。

全 上

實物の形體、色彩を正しく看取、表現させることの修練を目的とする。

表現方法

- 1、實物の形體、色彩を正しく看取し、なるべく精密に表現させる場合
- 2、實物の要点を敏速に把握して速寫させる場合

實物に即して看取したるものを如實に表現させ、繪畫的表現と説明的表現との基礎的修練をなす。

表現方法

- 1、正確、精密表現
- 2、要点の速寫
- 3、繪畫的表現
- 4、圖解による説明的表現
- 5、綜合的表現
- 6、分析的表現

#### 四、圖畫に於ける國家性

藝術とか美術とか云ふと一概に國境を超越した美の純粹の立場から考へやすいものなる故、圖畫としてもその一端を占むる以上同様に考へらるゝ事が多い。然し皇國民鍊成を以つて目的とする國民學校に於いては、根本的にこれ等の考へを是正しなくてはならない。こゝに於いてか圖畫にも國家性を充分に取り入れて、國家を中心とした時代にふさはしいものとしなくてはならない。

さりとて餘り偏狹な考へから只單に國民的なものと限定して、兎角と墨繪の様なもの許りとする様に堅苦しく考へてはならぬ。墨繪もとより結構ではあるが、現今の洋畫は日本畫にも良い刺戟を與へ、其の技法の如きも巧みに國民化され、吾

が國美術の上に非常に役立つてゐる事は明白の事實である。

かく考へて來る時は、子供の繪がクレオンだから、水彩だからと云つて、これ等すべて西洋物なるが故にの理由にて之を排撃するのは當を得ないことである。

現に圖畫科に於ける施行規則中にも、

「我が國民ノ傳統的技法ヲ尊重スルト共ニ東西ノ様式ノ別ニ拘泥スルコトナク廣クコレヲ指導ノ上ニ活用シテ兒童ノ性能ノ伸長ニカムベシ」

の一項目を設けて特に注意をうながしてゐる。

殊に兒童にありては、是等クレオン畫にしても水彩畫にしても立派な日本物にして、大人の立派から理窟づけられやすいのである。よしそれが西洋物であらうとも、皇國民鍊成の基礎をつくるものである以上、兒童に於ては他國のものとして吾が國藝術の精神と比較させ、其の長を採り短を捨て、吾が國の新しい文化の創造の基礎を作つて行く様に仕向けなくてはならぬ。

尙此處に一つの問題として、現今時局から色彩を云々する圖畫は兎角と華美に渡り、殊にそれが生活化される以上所謂平和時にのみ於ける所産の様考へらるゝ趣もあり、この爲國民學校に於いては諸教科中特に時局色すくなき感をいなく者無きにあらず。併しこの重大時局下に國家として一點の無駄があらうはずなく、決戦必勝への一路何物も不必要のものを取り入れやうはずがない。

文化絢爛たりし奈良時代、平安時代の豪華な宮殿造り、服飾の美あれば、戰國時代に於ける築城、鎧冑に剛氣卓拔たる美あり、こゝにも時局より來る雄大な國家性を見る。

何れにしてもその素材何たるを問はず、指導者に日本人的國民的精神の存在する以上、時局ある國家性を持つ圖畫が更生されるわけである。



## 五、其の他

### 圖書の科學性

國民學校諸教科の中何れにも適用される言葉ではあるが、淺倉先生の云へる「これからの繪には科學性を持たせなければならぬ」と従来の小學校の圖書としては深く反省して見る必要がある。

自轉車の精密寫生をさせる場合にも、只視覺の訓練だから精密に畫けば良いのではなく、何が故に此處は太く彼處は細くその組合せが、とかくして考へ乍ら合理的な理法を發見させる。又色彩上に於ても同様の事が云へる。何が故に明るく何が故に暗く、その明るさの程度は、と知的に物を見る力を養ふ。そして形態の上にも體系づけられ、色彩に於いても明度差、色想純度の感覺を修鍊する必要に迫らる。

今日程喧しく科學教育の叫ばれて居る時代はない。科學性を持つと云ふことは觀念知識として科學を學ぶといふことでなく、それを身を以つて實踐し體驗し、工夫し發見して行く生活態度を馴致することである。この意味からしても、圖書に科學性を持たせる事は意味深いことである。

### 藝能科工作教科書の取扱と機械教材の指導

#### 一、藝能科工作教科書の取扱

國民學校制の實施と共に従来の手工が工作と改められ、待望の工作教科書の出版を見て名實共に本科教育が一新されたことは誠に喜ばしいことである。殊に新工作教科書は文部省が始めての出版であるだけに、あらゆる研究と調査の下に編纂されたもので、世界に比を見ない優秀なる教科書ときき及んでゐる。

然しかかる教科書をして眞に意義あらしめ工作教育の目的を達成するは、吾々實際教育家に課せられたる使命にして、其の重きを痛感するものである。

以下工作教科書の特徴と其の取扱ひの態度について述べて見たいと思ふ。

#### (一) 初等科工作教科書の特徴

##### 1、科學的機械教材が多く盛られてゐること。

従來の手工教育に於いては趣味的、情緒的な手工藝的教材が大部分を占めてゐたのであるが、これに對し科學的機械教材を以てしたことは最も大きな特色である。

殊に科學的教材の一つとして模型航空機に關する教材が初等科一年より各學年に亘り、系統的、發展的に提出されてゐる。これは云ふまでもなく國防的見地より又一つには其の工作的價值より之を重視し、各學年の主要なる教材として配當されたものと思はれる。

尙機械教材の取扱については項を改めて述べることにする。

##### 2、創造性伸長に留意すること。

工夫創造の精神を養ふことは工作教育の生命とも云ふべきもので、此の点についての考慮は教科書の上にも十分うかがはれる。即ち教材中に工夫考案の餘地が多分にあるものとか、或は工夫創造の基礎的なもの發展的なもの等取入れられてゐる。教師用書にも思想製作或は工夫製作等と明示して特に工夫創造力啓培を第一の目的としてゐるものが澤山ある。然し工夫創造の精神の涵養は單に工夫製作の教材が盛られてゐることによつて成されるものでなく、教へ方如何によるところが甚だ多い。與へられた教材を單にわからせればよいとか、示された通りに出來たらよいといふだけでなく、兒童をして工夫しつゝ製作し、工夫しつゝ操作する態度に導くことが大切である。又一切を教へ盡くさず常に工夫の餘地



と、工夫の機会と時間と暗示とを與へ、兒童の工夫の芽生えは如何に零細なものでも之を認めてやり、懇切に慈育するやうにしたいものである。

工夫創造の態度を養ふには兒童に科學的態度を養ひ、自然の理法を明かにしなくてはならないが、それかといつて物理化學の法則等を抽象的に教へて、然る後に其の應用として製作させるが如きは必ずしも工夫創造の力を養ふ所以ではない。又眞に理數科と聯絡する道でもない。實踐に即して理論があり、製作の行爲に即して原理がなくてはならない。製作品を操作させ或は調整させ、時に失敗の原因を探ることも創造性伸長の大きな役立となるのである。

又兒童は夢多きものである。その逞しい想像力は工夫創造の推進力として尊重せねばならない。それを徒に不合理として彈壓することは、無稽な空想に耽らしむることと共に慎まねばならない。夢と科學と互に媒介し合ふところに子供の具體的な創造があるものと思ふ。

#### 8、基礎的技術の修練を重視すること。

基礎的技術の修練重視の現れとして、工具取扱に對する教材と工作技術指導の教材が擧げられる。用具をよく理解し其の取扱を合理的にし且つこれを受用させる指導の重要なことはいふまでもないが、従來は兎角之を輕視してきた嫌がある。然るに新教科書は教材の主要なる位置に之を置いたことはまことに意義深いものがある。

次に工作技術の基礎修練として製圖の基礎教材、或は構成の初歩に關する教材、或は日常生活に於ける器械器具操作の基礎修練として簡易な玩具、器械の操作教材が取入れられてゐる。

又一面従來の手工より一層正確性、堅牢性、科學性の基礎的技術の陶冶といふことも考へられてゐる。

#### 4、兒童生活と關聯ある教材が盛られたこと。

教材の内容は科學的なもの或は基礎的技術を陶冶するもの等種々なる観点より選擇されてゐるが、取材は極めて兒童の生活と關聯あるものより行はれてゐる。即ち兒童の遊戯生活、或は學習生活等と關係深く而かも陶冶價值の多きものを採擇されてゐる。それだけに兒童に親しみと喜びを以て迎へられるわけで、教育的價值も一層深いものと思はれる。教師の趣味的立場より之等の教材を取捨することは戒むべきである。

#### 5、讀圖、製圖の指導を重視すること。

製作教材の展開圖、工作圖等より獨立した製圖教材も加へられてゐる。讀圖と製圖の仕事が工作上重要な要件である上から、當然かうした教材が取入れられたものと思はれる。教科書の無かつた過去に於いては其の必要は感じてゐたものの實に不徹底に終つた感がある。教科書の恩恵を此の点からも感ずるわけで、大いに之を活用し讀圖力と製圖力を養ふと共に工作能率の増進を圖らねばならない。

又圖の寸法を秤で表してあるが、これは正確性の現れと見ることも出来る。

#### 6、共同製作教材の加へられたこと。

この教材は所謂兒童が協力して作品を完成するところに教育的意義を認めて、配當されたもので、特に其の過程を重視して取扱はねばならない。又各人が各々其の能力を十分發揮することが出来るやう、細かい計畫の下に實施しなくてはならない。

#### 7、教材が系統的に配列されてゐる。

教材が材料により、或は使用工具により、又は表現方法の難易等により發展的に學年相應に配列されてゐることも直ちに肯かれることである。随つて理由なき限り教材を前後して取扱ふことは考へなくてはならない。然し過度期であることより下學年の教材を適宜取入れ系統的に指導することは望ましい。

以上工作教科書を眺めて其の特色の概要を述べたのであるが、次に工作教科書取扱の態度について考へて見たい。

### (二) 教科書取扱の態度

#### 1、教材の個性を把握して指導に當ること。



教師用書には工夫製作、臨圖製作、模倣製作、製圖、説話實習等夫々指導の着眼を明示されてゐる。即ち教材の個性を  
はつきりさせてある。これを度外視して指導したならば、その教材本来の目的を達成しないことになるのである。特に  
どの教材も模倣製作に終始することなきやう注意しなくてはならない。

## 2、全教材完結の態度で臨むこと。

授業時数と教材との関係、或は資料の関係等にて全教材を完結させるには相當な努力を必要とすると思ふ。然し材料難  
とか授業時数不足とかの名にかくれて教材を捨てたり、或は陶冶價値の乏しき代用教材を無暗に取入れ、國家の要望す  
る工作教育の使命を没却するやうなことがあつてはならない。

又工作能率を増進する爲に時間割の編成といふことも考へねばならぬし、工具の整備といふことも重要な問題である  
が、教師の努力と熱愛が最も望ましいことである。

## 3、教科書を活用し實習時間を多くすること。

このことは前項とも關聯あることであるが、工作が教科書が出来たことから實習を抜きにした所謂觀念的指導となつて  
は其の生命は失はれてしまふ。随つて教科書を活用し、實習時間を如何にして多くするかについての考慮と工夫が必要  
である。児童用書にある説明も十分に理會させる要はあるが、徒にその讀解に時間を多く費し實習時間を減少すること  
のないやう注意しなければならない。讀圖力等は基礎的指導を十分に眞の力を養つておくことが望ましい。

尙教科書の扱ひではないが工作に於いては材料工具を始めとし各種の準備を必要とする。若し之を怠るならば折角の授  
業時間を減縮することになるから授業の準備は萬難を排して行はねばならない。

## 二、機械教材の指導

國民學校藝能科工作の最も著しき特色として擧げるならば機械教材の取入れられたことで、この指導は最も留意す

べき点である。以下これについて述べることにする。

### (一) 工作科に於ける機械教材の表示

藝能科工作の要旨に「藝能科工作ニ物品製作ニ關スル普通ノ知識ヲ得シメ機械取扱ニ關スル常識ヲ養ヒ工夫考案ノ力ニ  
培フモノトス」とあり、

又第四項には「機械器具ノ操作、分解、組立、修理等ニ付テ指導スベシ」と示され、

更に第六項に於いては「材料工具ニ關スル知識ノ大要ヲ授ケ利用節約、工具ノ整理保存等ニ付テ指導スベシ」と述べら  
れてゐる。

之等は工作科に於ける機械指導の表示と見ることが出来るもので、今までの手工教育が法令上の形式に於いて革新され  
たとするならば、この機械に關する事項の加へられたことは明確にそれに當るものといふことが出来る。このことは工作  
教育に關する甚だ重要な事項で特に工作内容にも機械教材の加はつたことは、時代性を帯びてきたとも考へられ、又我  
が國産業上國防上甚だ有意義なる存在となつたのである。

教師用書に於いても、藝能科工作の目的の第二に「機械に關する常識は、物品製作の過程に於いても、機械模型や機械  
の部分品を作ることや、機械によつて物を作ることなどを通して養はれる。

機械教材は、機構から成立してゐる機械は勿論、装置、器具、工具を含み、例へば工作機械、兵器類、交通機關、無電  
機、理科機械、機械玩具等にも及ぶ。

之等機械についての常識を與へ、あるものは之を操作し、あるものはこれを實物又は模型に製作せしめることによつて  
機械を理解し、これに親しみ、これを愛し、現代の機械文化を十分に活用し得る能力を養ひ、國防、産業、其の他國民生  
活の充實に資せしめんとするものである」と述べ機械教材の内容目的等についても説示されてゐるのである。



## (二) 機械訓練の重要性

今日の科學の進歩に隨伴して機械訓練の重要性が日と共に加重されつつあることはここに贅言を要しない。

又現代國民生活と機械との關係は職業の如何に拘はらず、之と不可離のものとなりつつある。農村に於いても、山村に於いても、或は漁村に於いても機械を利用してこそ合理生活が営まれるのである。それ故に國家が國民教育に於ける一般基礎陶冶として、或る程度の機械器具の操作、分解、組立、修理等について指導することとなつたのは當然である。

次に機械訓練の必要を擧げて見ると。

### 1、生活の合理化

機械の起因は人間活動の合理的能率的な慾求の具現にあるのであつて、それだけに合理構成へ其の意圖は推進されてゐる。

故に機械に對する知識を授け、併せて機械に對する基礎的體驗を積ましめることは、直ちに機械を活用し、創造して以て將來の生活の合理化を企圖させることとなるのである。

### 2、職業生活の基礎陶冶

職業に依つては機械を使用する積極的立場と機械を利用する消極的立場とある。工業技術者、機械運轉者等は前者に屬し、汽車、電車等の乗客は後者に屬する。何れの場合に於いても、よく機械を理解し、其の性能を知つておくことは極めて大切で、其の能不能が國民生活の上に大きな影響をもたらしことは明白である。故に如何なる職業に従事するとも融通性のある機械訓練は絶対に必要である。

### 3、國防の強化

機械化部隊が近代戰の花形であるといふことは、とりもなほさず、近代戰が如何に機械化部隊に重点を置いてゐるか

といふことがわかる。機械化部隊のみならず、今日ではあらゆる部隊が各種各様の武器を使用しなければならなくなつた。而も日一日と新銳武器の出現する今日、其の操作訓練が益々緊要となつて行くことは當然である。

軍部の話を傳へきくと、農村出身の兵士は兵器の故障が生じてもそれが如何なる故障か見當がつかかねる者が多いが、これに比して都市に育つた者は故障の發見が比較的容易であるとのことである。

此の差異は日常生活に於ける機械への接觸度合の差であると考へられる。此の一事をもつてしても今後國防が少國民の機械訓練に重大なる關係をもつものと思はれる。

### 4、智能判斷、發明創造、巧緻性等の諸能力の陶冶

機械は一分の狂ひも許さない甚だ精巧確實なものであると同時に、其の構造の複雑性は智能判斷の陶冶となる点が多い。又機械の製作、操作、分解、組立、修理はよく意志力、思考力を陶冶し進んでは發明創造の力を養ふこととなる。又機械の構成或は取扱ひは手の巧緻性を要するが故に此の性能も培養される。

之を要するに機械器具の指導の目的は單なる知識として終らせるのでなくて、體驗的鍊成に基いて生活を合理化し、あらゆる方面に於ける職業人としての基礎陶冶をなし、國防を強化し、併せて鞏固なる諸能力の陶冶を目標とするもので機械訓練の重要性もこゝにあるのである。

## (三) 藝能科工作に於ける機械教材

藝能科工作に於ける機械教材については教師用書に詳細掲出されてあるのでここには省略するが、唯教科書に擧げてあるもの以外で兒童の生活の周圍に多くの生きた機械教材のあることを見逃してはならない。之等を兒童の心身發達の程度に於いて指導することが生きた取扱ひとなるのである。例へば水道の蛇口、教室の錠、窓のねぢ、工作室のミシンその他種々なる工具の扱ひを忘れてはならない。



次に初等科四年までに現れたる機械教材（科學的玩具類を含む）を擧げて見ると、

初等科一年 紙鐵砲、飛行機、軍艦

初等科二年 電車、軍艦、風車、飛行機、双眼鏡

初等科三年 小刀の使ひ方、木鐵砲、メガホン、グライダー、こま、自動車、針あな寫眞機、道具のあつかひ方

初等科四年 小刀の手入、潜望鏡（男）模型、防毒面、水車（男）笛、竹鐵砲（男）ピンセット、グライダー、自動車、機械のあつかひ方（二課）

以上の通りで初等科三、四年に於いて此の種の教材が非常に増加したことは注目すべきである。即ち三年に於いては十七教材中八教材、四年男子に於いては十七教材中八教材、四年女子に於いては十三教材中六教材が機械的教材で更に五、六年に於いても此の種の教材が多分に盛られるものと想像される。

尙之等機械的教材を取扱ひの方面より眺めると製作教材（模型製作を含む）操作教材、分解組立教材、修理手入教材、説話教材等と分類することが出来る。

#### （四）機械教材指導上の留意点

##### 1、形體と機能の指導

機械指導の焦点は形體と機能の指導にあると思ふ。形體と機能とは密接な關係があり、秀れた機能はそれに相應しい形體に現するものであることを知らせ、常に機能との相關に於いて形體を把握し、理解し、考案創造せしめるやう指導することが大切である。かく考へ指導することにより、生活の改善も、國防産業の發展も期せられるのではなからうか。兎に角機械を或は機械模型を製作させるにしても、機械を分解組立るに當つても機能と形體との考察指導を忘れたならば機械指導の目的は達成されないことになるのである。

##### 2、技術的並精神的訓練

機械教材の取扱に於いては單に機械機能についての抽象的觀念的取扱に終つてはならない。飽くまでも行的實踐を通して技術的精神的訓練をして行かなくてはならない。ここに工作科としての獨自性が存するものと思ふ。

即ち機械或は機械模型の製作に當つては、製品の出來榮え、技術の巧妙も必要であるが製作に當つての態度、心構へを重んじなければならない。又工作技術を單なる手先の器用に終らしめることなく、常に綜合的直觀力と科學的思考とを手先に實現せしむるの修練たらしめることが必要である。

又兒童をして自發的に思考し、自發的に創造する修練を與へねばならぬ。機械工作の指導に當つては、技法、工作順序等についての指導も重要であるが、其の行き過ぎのため製作、創造の喜びを失はせ、又徒に他力に頼る傾向を生ぜしめぬやう注意が必要である。

##### 3、理數科との關聯

工作科に於ける機械教材の取扱に於いては、理數科に於いて與へられた知識能力を綜合、活用し之を實踐して、國防力の強化、生活の合理化、生産力の擴充に資せしむる素地を作ることが大切である。

理數科の教授方針中にも「藝能科工作ト相俟テ機械器具ノ取扱ニ慣レシメ科學的技能ノ修練ニカムベシ」と示されてゐる。

然し理科は飽くまでも原理を背景としての科學訓練であるが、工作科は工作技術を主體としての學習である。而して工作教材は理科に比べて遙かに多い。又機械に關する操作、分解、組立、修理等の訓練は理科よりも工作中に於て指導をなすべき責務を有すること勿論である。

以上は機械教材一般的取扱の態度であるが、更に各種の機械教材の指導の要点を考察して見たいと思ふ。

##### 4、機械製作教材の指導



製作教材としては機械的な玩具類をはじめとして、機械模型特に模型航空機の教材は其の中心をなすものである。之等教材の製作指導に當つては、形體と機能の關係を十分に理解させるとか、技術的精神的訓練を重視するとか、或は兒童の創意を十分發揮させること等重要な事項と考へるが、これ等については既に述べたところであるから、ここでは其の中心をなす航空機教材の取扱について記すこととする。幸ひ此の点については文部省より航空機教材の指導方針が示されてゐるので、ここに掲げて其の認識を深めたいと思ふ。

イ、航空の進歩が國運の進展と深い關係を有し、特に國防上重要な意義を有することを認識させる。

ロ、航空及航空機が自然の理法の推究に基く科學研究の所産なる所以を知らせ、兒童をして自然の理法に基いて創意し創造する氣風を旺盛ならせる。

ハ、正確精密なる工作技法を修練させると共に丹念綿密に事に當る良習慣を養ひ、且つ堅忍克く仕事を完遂する氣魄を育成する。

ニ、製作並びに飛行訓練を通じ兒童相互の協力及び共同動作の必要なわけを體驗させ、共同一致の精神を涵養し團體訓練の徹底を期する。

ホ、工作法の指導に當つては計算、測定、讀圖、製圖、作表及び簡單なる設計をさせ、機械器具の取扱に慣れさせ、且つ國産材料活用につとめしめ物資尊重の念を培ふ。

ヘ、航空機は輕量でしかも堅牢であることを要するので、材料及び構造に關して科學的態度を以て研究する氣風を養ふト、氣流特に上昇氣流及び下降氣流につき、實際に即して知らせ、航空と氣象との密接な關係に留意させる。

チ、適宜説話を行ひ航空の歴史、航空界の現情、現用航空機の種別、性能、用途につきて知らせ航空思想の昂揚につとめる。

リ、正課の時間以外に少年團及び學校の修練組織を活用して教育的効果を擴充し、才能ある兒童を正しく指導してその

特色を發揮させることにつとめる。

ヌ、臨時競技會等を開催して兒童相互の切磋琢磨によつて技能の向上を計り、志氣を旺盛ならせると共に團體訓練の徹底を期する。

本教材は各學年に配當された發展的重要教材であるから、前學年或は前々學年との關聯を考へ、又兒童の技術程度を考へ相當學年以下或は以上の教材を取扱ふことも必要である。

唯此の際留意すべきは徒に完成を急ぎ、自由に流れ、正確精密なる製作を怠り本來の使命を逸すが如きことがあつてはならない。

又本教材は教師の體驗なくしては到底適切なる指導は出來ないものであるから、此の点教師の修養として心掛くべきである。

#### 5、操作教材の指導

イ、操作玩具或は道具を出來るだけ多く準備すること。

ロ、適當なる操作法を發見させ又其の理由を考察させる。

ハ、構造と機能を十分に觀察理解させる。即ちどんな仕かけでどんな働きをするかを考へさせる。

ニ、破損させぬやう大事に取扱はせる。又取扱の方法も具體的に教へる。

ホ、授業時間のみならず指導に終ることなく、常に兒童に接せしめ操作の實踐力を啓培すると共に愛用させる。

#### 6、分解指導の要点

イ、分解に當つては構造機能の概要を調べさせること。

ロ、兒童自身に分解させるものは圖又は記録に残しながら分解させるがよい。

ハ、教師の示範により分解するものは、示範により、順序方法を明確に記憶させること。



ニ、部分を取外す毎に一つ一つ其の機能を考へさせ、何故其のやうな形状大きさに作られてゐるかを研究させる。  
ホ、分解した部分品は取外した順に左右前後の位置を分り易く整理して並べさせること。

#### 7、組立指導の要点

イ、組立に先立つて各部分を掃除しながら点検し、破損又は磨滅して使用に堪へぬものは取替へる。

ロ、順序正しく入念に組立てること。

ハ、固定すべき部分、運動し得るやう結合すべき部分等しめ工合を體得させ、磨擦部分には潤滑油を施させる。

ニ、組立たなければ静かに動かし、十分調整させること。

#### 8、工具の手入指導の要点

イ、工具を尊重愛用するの精神を持たせること。

ロ、工具が如何なる場合に最もよく其の機能を果すかを考へさせ、その理にかなつた手入法をさせる。

ハ、常に手入を怠らず又丁寧に保存するやう心がけさせる。

ニ、砥石其の他手入用具の整備を圖ること。

以上八項に亘り指導の要点を述べたのであるが兎に角新しい教材として、而かも重大なる使命を帯びて登場した機械教材については更に留意すべき点があらうと思ふが今後の研究として行きたい。

### 藝能科裁縫に於ける衣類生活指導

#### 一、藝能科裁縫

解りきつた事柄ではあるが、もう一度始めに藝能科裁縫の指導目的を擧げて参考にした。

#### (一) 躰尊重、皇國女性の練成

1、よい姿勢、よい心的態度

2、綿密忍耐、清潔整頓、節約利用

#### (二) 衣類生活全般の指導

1、裁ち縫ひ

2、整理保存更生

3、着附、着方

4、鑑賞指導

#### (三) 衣類生活の基礎的修練

1、衣類の科學的、合理的處理

2、工夫考案の力の養成

#### (四) 經濟的觀念の養成

1、時局認識

2、衣料國策

#### (五) 情操の醇化、美的教養

#### (六) 傳統尊重

指導目的を要約すれば大體以上のやうになる。内項目の(二)を拾つてしらべて見る事にする。



## 二、衣類生活全般の指導

初等科四年の教科書を一覽すれば氣附かれるやうに、國民學校になつて裁縫もいろ／＼の点で従來と面目を異にしてきたのであるが、なかんづく最も著しいところはただの裁縫科ではなくて、藝能科裁縫となつたといふ事と、それから衣類生活全般の指導をするといふこの二つが最も大きな違ひである。

即ち以前の裁縫科よりも廣範圍になり、従來の高等科の家事科教材より衣類に關するもの、例へば洗濯、着物の仕末等が裁縫科に加はり、衣類生活全般の初歩的指導を兒童の生活に即し、能力の許す範圍で取り入れられたのである。

### 1、裁 ち 縫 ひ

従來はやゝもすれば製作教材に重きを置き、裁ち縫ひの技術指導を重視したのである。この精神は決して疎かにしてはならないが、今度はこの技術指導にだけ止まらず、衣類生活目標のもとに取扱はなければならないものである。

### イ、姿 勢

よい技術はよい姿勢、よい心的態度から生れるものであるといふ風に取扱ひ、心を修めるといふことについて指導する「上手な縫ひ目は見ただけでも氣持よいものです」上手なぬひ目は落ち着いた、ていねいな、根氣強い心から生れますせつかちで、あきつばい心からは決して出て來ません」この様な言葉は決して縫ふ上げばかりでなく、全體の指導に行き渡らせたものである。

### ロ、裁 縫 用 具

實際に役立つ、しかもよい仕事をするには先づ第一に裁縫用具をしつかり整へ、整理、記名等の躰指導を怠つてはならない。又用具の中最も大切な針の取扱ひは國策を念頭に於いての處理をなさなければならぬ。

### ハ、基 礎 練 習

製作教材が一重に實用的、實際的といはれ、廣範圍になつたが、決して基礎練習が疎かになつたのではない。よく縫へなければ美しい製作、又は實際に役立つものは作り得られない。姿勢に留意すると共に絶え間ない運針の練習こそ望ましいものである。本校では家庭又は時間の始めに行ひ各兒の反省を促してゐる。

### ヘ、合理と創造

何のために製作するか、先づ目的が明かでなければ興味も何も湧いて來ない。始めてお裁縫をやつて見る、すると絲屑が出る、その絲屑を粗末にしないといふ躰の上から袋が必要となり、作つて見ようといふ興味が起り製作に取りかかるのである。その製作の途中、どうもきせをかけないと綺麗に仕上らないからきせをかけませうといふ順序にして指導し又そこに兒童の工夫創作を取入れ、一層効果あるものに仕上げなければならない。この場合縫代、待針の打方等決して忘れてはならない。

### ニ、時 間

裁縫科が廣範圍になるにともなつて裁縫時間の不足はいふを俟たない。何事も重点主義で行はれ、時間中には基礎的な所だけをしつかり把握させ、例へば袋を縫はせる場合等には袋縫又は二度縫の基礎を充分に兒童に解らせ、出来るだけ時間中に行はせ、出来ない所は家庭作業として行はせなければならない。それには家庭の母親とよく連絡し、國民學校の教育といふものをよく母親に吞込んで戴かなければならない。兒童は又家庭を通して新たな衣類生活の關心を喚起する事が出来るのではないか。

### ホ、材 料

時局柄第一に考へられる事は材料の選擇ではないかと思ふ。國民衣服の点数化はいふまでもなく、織物の交織化等考へべき点が多くなつたのである。兒童は袋にしても枕被ひにしても材料については母親に相談する。「そんな布は家にはないからお父さんの点数で買つておいで」と何にも探して見ないで、すぐ新しいものをといふ母親、又は「ではお母さん



「いい布を探してあげませう」といつて古い物から探し出して子供に與へる母親と二種あるのではないか。従来ならば前者の方法をとつてもよい、しかし今の時代としては絶対になくし、全部後者の様にしたいものである。又しなくてはならない問題である。これには又家庭との連絡を計り、教師は材料の話しは充分兒童に解るやうに決して疎かにしてはいけない事柄である。まあ今の所本校に於いても家庭の認識が高まつた關係か新品で製作する兒童は全くないといつてもよい。古物より自分で工夫創造する事こそ生きた裁縫である。無駄遣ひをしないといふ事は兒童がよく吞込んでゐる事柄である「慾しがりません勝つまでは」の心持で裁縫科の基礎指導をなしたいものである。

#### へ、作品の實用化

兒童は又兒童でなくとも自分で作ったものには好感を持ち、自分のものであるといふ感が一層強く中々手離せないものである。作る以上は結構役立つものでなければならぬ。例へば前掛にしても自分らしく、又お母さん、お姉さんらしく出来たか、もつとかういふ風にと工夫反省をし、實際に使用して見るのである。自分で作ったといふ事が兒童の頭の中にあるからきつと汚れたなら綺麗にして使はうといふ心持が湧き、自然とお洗濯をして見ようといふ心持になる。子供ならずとも自分で作ったものは大切にすることもである。汚れたものは自分で洗濯し、いつもさつぱりしてゐたいといふのは日本人の性格である。洗濯をすればしつかり延ばして整理して置かうといふ事になり、随つて衣類の整理と保存といふ事が生れてくるのである。

#### 2、整理、保存

衣料生活建直しの叫ばれてゐる今日、衣類の整理保存は小さい事のやうではあるが決してさうでなく、大きく云へば國家の御役に立つものである。

#### イ、物資の壽命を長く保つ

物資を大切にするといふ事は、今後の生活態度として特に要求せられるところである。どんなに確かな生地であつても

その整理保存が悪ければ弱りも早く、泥れてゐれば見た目もよくないものである。特に時局柄交織等が多く、整理保存の上に細心の注意を拂ひ、衣料國策に沿ふやうにしないでならぬ。手近な問題として、兒童は自分の今着てゐる服を長く保たせる様な工夫をさせるのである。それには、汚れを落す、破れた所は繕ふ、出来ればハケで毎日拂ふやうに習慣づけ、物資に對して感謝の念を養成したいものである。

#### ロ、科學的知識の養成

とかく女子は科學心に乏しいと云はれてきたものである。この言を打破すべく先づ身近な所の衣類の整理より、科學的に合理的に處理する様に小さい時より指導する事は妥當である。科學的といふと難しいやうであるが、洗濯をする場合能率的にするために立つてやるとか、又石鹼についても、どんな水で、どんなに洗へば効果的であるかといふ事だけでも立派に科學的處理を行つてゐるのである。

#### ハ、身嗜

よく手入の行届いたものを着てゐるのは何となくゆかしい人柄を表はすものである。整理保存等是一家の主婦の務めとされてゐる。これを習ふことによつて自ら皇國女性としての徳性の涵養が出来るのであらう。

#### 3、着附、着方

#### イ、被服の使命

- 保健衛生……防寒防暑の被服
- 道徳儀禮……社交、儀禮、式典等
- 裝飾審美……被服の藝術化
- 標識類別……衣冠束帶、軍服、學生服、團體服、警官服、國民服等



○生活活動 { 静的生活……家居、休養、病臥  
動的活動……執務、作業、労働 }

○扮装 擬態……演劇、舞踏、假装、探偵の變装、兵士のカムフラージュ  
□、正しい被服

國民の生活は今あらゆる面に互つて刷新改善が要求されてゐるが、男子國民服、女子の標準服といふやうに、衣類生活の建直しは切實な問題として取りあげられ、又いろいろ検討されてゐる。凡そ國家が存在する以上は、その國土に似つかはしい服装も生れてくるものである。日本も從來の日本ではなく、大東亞を擔ふ指導者たる日本となつたのである。ビルマのバ・モ博士も今までの米英の模倣生活から脱出して新しい國民服を創造し、自ら愛用してゐられる所を新聞紙上で見學すべき点の多いのを感じたのである。何としても戦に勝たなければならぬ。どこまでも米英の模倣から脱出しなければ決して戦に勝つことは出来ない。戦争中の正しい服装といふ事を重点として「よい身なり」の指導がなされなくてはならぬ。

初等科四年兒童用第一頁に擧げられてゐる「おとうさん、おかあさんのお心のこもつた着物が着られる私たちは、ほんたうにしあはせです。このお心のこもつたよい着物も、だらしなく着てゐてはよい身なりとはいへません。きちんと着なければなりません。着物をきちんと着るためには、いつも手入をおこたつてはいけません。さあ日本の子どもとしてはずかしくないよい身なりについて、いろ／＼なことをおけいこませう」と出てゐる。

この教材は正しい衣類生活への第一歩を指導するのである。右の文章も他の學科と違つて、兒童の實際生活に重点をおいて指導をすすめて行き、そしてよい身なりをすることの意義を知らせ、果ては體能科裁縫は要するに「よい身なり」のおけいこであることを認識させるのである。即ちこの「よい身なり」の文章を指導の出発点とするよりも、むしろ歸着点とする積りで指導にあたりたいものである。

ハ、よい着物とよい着方

この問題は今の國民の誰もが一應考へなほさなければならぬ事柄である。よい身なりとは決して華美な着物、おしやれな着物などさしてゐるのではない。

○、よい着物

着物とは身體、思想を包むものである。かく考へてくると、その人の着物の柄及び物からしてその人の精神生活がうかがはれるのである。

保健衛生の目的によく合つてゐる着物即ち身體によく合ひ、寒暖に應じてゐるものがよい着物である。兒童については、即ち學校へくる時の服装、體操時の服装、作業時の服装についての正しい服装について知らせるのである。

○、よい着方 (おしやれな着方ではない)

衿、袖口、裾等が亂れないで正しく着ることである。紐、帯、ボタン等がキチンとなつてゐることである。更に洗濯や繕ひが行届いてゐることである。父母の心づくしのよい着物を大切に着用し、食事の時、遊ぶ時等破つたり汚したりしないやうにするのがよい着方である。こゝで第二で學ぶ食服用ひさかけの實際化が必要とされ、又兒童も自分が作りあげたのだ、自分にももうこれだけの力があるんだといふやうな誇が出、喜んで使用するであらう。實際に私共の級では使用してゐる。

衣類生活を知らせる事によつて母の一通りならぬ苦勞を思はせ、感謝と同時にやがては自分達の將來に課せられる大きな責務を自覺させることも大切な事である。

#### 4、鑑賞指導

服装はその人の美的教養(精神生活)を赤裸々にあらはすものである。美に對するよい目を養ふ事が鑑賞指導である。目を肥やすには多くのものを見せる事が必要である。参考品の蒐集、展覽會、百貨店等の參觀等有益な方法である。



431  
172

又自分の作ったものについて考へて見、他の児童の作品の観賞批評を重心を傷つけない程度に行ふ事は必要である。一定の型にはめないで、児童の目で見よいやうに自分に合ふやうに工夫させる事は大事な事である。  
 鑑賞指導に於いて忘れてはならないことは、先づ児童の環境を美的に整理してやる事である。  
 以上裁縫科がこのやうに見方考へ方が變つてきた事、裁縫科の指導がつまりは「よい身なり」の指導であるといふ事を念頭に置いて指導に當りたいものである。

本校職員

田	森	戸	齋	山	岩	宇	櫻	堀	櫻	石	長	細	杉	金
中		田	藤	下	崎	佐	井	井	野	谷	川	田	本	原
安	茂	き	ほ	菊	美	美	春	芳	三	由	太	一	郎	郎
枝	子	あ	み	枝	子	る	子	郎	郎	進	恵	榮	郎	郎

昭和十八年一月十日印刷  
 昭和十八年一月十五日發行

編輯兼  
 發行人  
 金原英一郎  
 静岡県志太郡島田町第三國民學校

印刷人  
 渡邊錠次郎  
 静岡県志太郡島田町七八九六番地

印刷所(中野三)  
 渡邊印刷所  
 静岡県志太郡島田町七八九六番地



